

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月25日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input checked="" type="checkbox"/>	7. その他(大学職員)		

派遣先大学の概要
<p>ニュージーランド南島のダニーデンに所在する大学。1969年に設立された国内最古の大学で、2019年に創立150周年を迎える。ダニーデンのほかクライストチャーチ、ウェリントン、オークランドにもキャンパスを有し、ビジネススクール系、医歯学・保健科学系、人文科学系、自然科学系の4領域で計200近いプログラムが提供されている。およそ21,000人の学生が学んでおり、うち2,800人以上(13.6%)が100の国と地域からの留学生。世界ランキングは151位、「世界で最も美しいキャンパスを持つ大学」にも選ばれている。(2018年3月時点)</p>
参加した動機
<p>大学生活最後の長期休暇を利用して集中的・効果的に英語を学びたいと考えたため。もともと英語(特に英語でのコミュニケーション)に苦手意識を感じており、仕事で英語が必要になる可能性も鑑みて社会人になる前に少しでも英語でのコミュニケーションに慣れておきたいと思ったこと、また、これまでに英語圏にも南半球にも行ったことがなく、時間のある最後の春休みに両方を兼ね備えたニュージーランドに滞在してみたいと思ったことから、プログラムへの参加を決めました。</p>
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
<p>パスポートの取得や保険関係の手続きにはある程度の時間を要するので、参加が決まったら早めに準備しておく方が良いと思います。また、プログラムに関係するメール等の連絡は見落としが無いよう、よく確認するようにしましょう。</p>
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
なし
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
<p>常用している鎮痛剤と、虫刺され用の薬を持参しました。 プログラム参加にあたって特別な健康診断や予防接種はしていません。</p>
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
付帯海学

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
工学部で開講されている英会話講座(スペシャル・イングリッシュ・レッスン)を直前のAセメスターに受講していました。 出発前の語学レベルは、TOEIC880点でした(取得は2016年7月)。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
電子辞書、持ち運びしやすい雨具(天気が変わりやすいため)、日焼け止め、常備薬、ガイドブック(観光やお土産探しに)。 事前にホストファミリーと連絡を取って、心配事や疑問点は早めに解消しておくかと安心です。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
授業は月～金の週5日で、午前中はGeneral English、午後は選択制でIELTSかTOEICのコースを受講しました。午前中の授業で一定量の宿題が課されるので、普段は授業の復習と宿題を中心に自習していました。加えて、ILCで英語のDVDを借りて視聴したり、Podcastで英語のニュースを聴いたりもしました。 英語の授業のほかに、オタゴ大学による東大生向けのスペシャルレクチャーや、オタゴ大学での正規の授業を聴講する機会も設けられており、英語でアカデミックな内容に触れることができました。
②学習・研究面でのアドバイス
③語学面での苦労・アドバイス等
ニュージーランド特有のアクセントとスピードのために、初めのうちはホストファミリーとの会話(特に聞き取り)に苦戦しましたが、毎日コミュニケーションをとっていくうちにある程度慣れることができました。せっかく英語圏で現地の家庭に滞在できるので、臆せず英語でコミュニケーションをとるように心がけると良いと思います。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイ
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
<ul style="list-style-type: none"> ・天気が変わりやすく、寒暖の差が大きい。 ・緑と坂が多い。大学を核として町が広がっており、主要な施設はほぼオクタゴンと呼ばれる中心部に集約されていました。 ・主な交通手段はバスかホストファミリーの自動車。 ・食事は、3食ホストファミリーによる用意。私の場合、朝はシリアルかトースト、昼は自分で作ったサンドイッチ等を、夜はホストファミリーと夕食、が基本でした。 ・現金は必要最低限(200NZドル程度)のみ用意し、現地では基本的にクレジットカードを使用していました。上限や万が一の事態に備えて、クレジットカードは2枚用意しておくかと安心です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

・治安の良い地域で、特に危険を感じることはありませんでしたが、夜遅くに一人で出歩かない、人通りの多い道を選ぶ、荷物(特に貴重品)から目を離さない、など基本的な危機管理は行っていました。
・規則正しい生活を心がけ、DVDを見たり適度に体を動かしたりして、ストレスを溜めないようにしました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

計約477,600円
・航空費(往復):148,000円
・語学学校への支払い(授業料・ホームステイ費用等):約210,000円
・Wi-Fi料金:約1600円
・携帯電話料金(Vodafone):約2,400円
・交通費(通学時のバス代):約5,600円
・娯楽費・その他(休日の旅行費・お土産代等):約110,000円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学から支給される奨学金を受給しました(計14万円)。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

語学学校の隣のジムでの運動、ラグビー観戦、映画鑑賞、ミュージアム鑑賞のほか、週末は泊りがけで他の街へエクスカージョンや旅行に出かけました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学生へのサポート体制はよく整っていたと思います。語学や学習、ホームステイ等に関して問題や要望があれば、語学学校の担当者が快く相談に乗り、対応をとってくれました。精神面・健康面の問題を相談できる機関もあり、プログラムはじめのオリエンテーションでそうしたサポート体制・機関全般について一通りの説明がありました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

Language Centre内のILC(図書室兼メディアセンターのような部屋)で図書やAV機器の貸し出しやPCの利用、カードゲームやボードゲーム等ができたほか、大学の中央図書館や食堂・カフェやLanguage Centreに隣接したジム等を自由に利用できました。中央図書館と食堂は使いませんでしたが、いずれの施設も清潔で設備が整っており、快適に利用できました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

もともと英語に自信が無く、少しでも苦手意識を克服したいという思いで参加しましたが、プログラムを終えてみて実際にそれが達成できた、と感じる点が今回のプログラムに参加した一番の成果だと思います。語学学校での授業だけでなく、ホストファミリー・ホストフレンドとの会話や外食や買い物・バスの乗降など日常の様々な場面で英語を使用しなければならない状況に身を置いたことで、英語でのコミュニケーションにも慣れ、何よりも英語に対する心理的なハードルが下がったな、と感じています。また、ホストフレンドやクラスメイトなど外国の学生と知り合い意見を交換できたこと、同じような形で学びに来ていた他大学の学生と知り合えたことも、このプログラムに参加したからこそ得られたものだと思います。
個人的には初めての南半球訪問・英語圏への滞在ということで、プログラム開始前はやや緊張していましたが、親切な人の多い穏やかな雰囲気のある街で大変過ごしやすく、集中して英語を学ぶ一方で様々なアクティビティにも参加し、多くの人と知り合うことができた、とても充実した3週間でした。

②参加後の予定

現在大学4年生で、既に卒業後の進路も確定しているため、プログラム終了後は内定先に就職します。就職後も、海外研修や赴任等の機会があれば是非参加したいと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

オタゴ大学が所在するダニーデンは、学園都市で外国人への寛容さもあり、英語を勉強する場所としても、初めての海外留学の場所としても最適な環境だと思います。3週間というほどよい期間で、学校での語学学習だけでなく、ホームステイ、エクスカーション、講義の聴講やその他課外活動など様々なことが体験できるプログラムです。ニュージーランドで生活してみたい人も、将来的に英語での長期留学を考えている人も、英語に自信がない人も、少しでも興味があれば是非参加してみたいかと思いますがどうか。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ニュージーランド留学に関する情報が掲載されたサイトを見て、持ち物等を検討しました。エクスカーションや旅行の際はもちろん、防犯系の情報についても『地球の歩き方』が役に立ちました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

1枚目: 語学学校のクラスメイトと

2枚目: エクスカーションで訪れたテ・アナウにて



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 15日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 商社)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランド最古の大学。医学部が有名。

参加した動機

4年間部活動中心の学生生活を送ってきたため、社会人になる前に何らかの形で留学を経験してみたかった。総合商社に内定しており、国際的な仕事に興味があり。英語力の向上、異文化交流に共に興味があった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

面接などは一切なく、申請書の志望動機などで決まるので精いっぱい自分の思いを伝えましょう。短期留学だからと言って4年生が不利とか、成績が悪いから不利ということもありません。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ニュージーランドは短期滞在なら日本人はビザが不要です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にありません。一般的な海外旅行と同様、風邪薬などは日本から持参するとよいと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

プログラムに参加する際に加入が義務付けられる保険のみです。指示に従えば良いので難しいことはありません。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部の教務課に、留学の概要、志望動機などの提出を求められますが、これも様式が決まっているので難しくありません。また単位申請もこのプログラムの場合基本は通らないと思うので気にすることはないと思います。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特に準備はしていません。英語学習を目的とした留学なので特に準備する必要もないと思います。受験勉強であまりやらない日常会話表現を少し覚えたりしていました。留学前はTOEICのスコアが880でした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

当たり前ですが、日本で用事はなるべく済ませるとよいと思います。私は留学中に帰国直後の友人との遊びのアレンジメント等に予想以上に時間を取られました。またホームステイなので、家にWifiがあるかなどや、大まかなルールなどについてホストファミリーに連絡を取ることをお勧めします。また、ホストファミリーの家族構成を気にしながらお土産を準備するとよいと思います。持参すべきものについては、日本より一日の寒暖の差、天候の変化が激しいので脱ぎやすいパーカー、防水仕様のジャケットがあると便利です。後者は休日の観光クルーズなどで重宝すると思います。ないと雨天の場合とても濡れます。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

基本的には高校大学の授業のように進んでいきます。まず授業が始まる前に英語力を図るテストを受けます。スピーキング以外すべてです。しかし、東大生は全員一番上のクラスに振り分けられたので特に心配はいらないと思います。月、金曜日が午前3の午後1時間、火、水、木曜日が午前3の午後2時間で、午前はGeneral EnglishというReading, Writing, Listening, Speakingすべて含んだ総合的な授業で、短期間ですが一応それぞれテストが課されます。Writingでは500字程度のessayを書いたりします。午後はIELTSかTOEICに特化したテスト対策の授業です。こちらは少し日本の講義形式の授業に近いかもしれませんが。基本的に毎日宿題が出ます。量も少なくはないですが、自由時間も多く他に特にすることもないので時間に困ることもないと思います。クラスによってはうすいペーパーバックの図書を課されたりもします。ノート、教科書、プリントは支給されます。その他に各先生独自の課外授業のようなものがある場合があります。私のクラスの場合、大学近くの空き地で農業を営む方に話を聞きに行く、等がありました。また、スピーキングの試験で、事前に話す内容について指定があり、ダニーデン市内に点在するストリートアートを自分の目で見て回りその感想を話す、というのがあり、ストリートアートは想像より素晴らしいものが多かったので印象に残っている。またLanguage Centreではなく実際にオタゴ大学の授業をいくつか聴講することができ、私はSocial&Businessという文系のリベラルアーツ科目のようなものを受講したが非常に面白かった。

②学習・研究面でのアドバイス

当然ながら宿題はリーディングやリスニングが多いです。もしスピーキングを伸ばしたいと考えるなら授業中に積極的に発言し、休み時間にも外国籍の生徒に積極的に話しかける必要があります。私がいった時は特に日本人が多く、学校でもいくらでも日本語が喋れる状況でした。実際に日本語をしゃべっている人も多かったのですが、そのような人とは話さないようにするかはっきり英語でしゃべろうと伝えるしかありません。あらかじめルールを決めておくとういいます。私の場合はホームステイメイトの日本人にも家では英語をしゃべろうと宣言しましたし、学校でも基本英語をしゃべっていました。唯一土日の観光の時はあまりにも日本人しかいなかったのが日本語を解禁しました。

また、学校にはIndependent Learning Centreという自習用の教室があり、様々な英語のDVDや本が貸し出されているので、活用することをお勧めします。DVDはその場で見ることもできますがILCは17時で閉まるので、家に持ち帰ってみる場合はDVDドライブつきのノートパソコンを持っていくことをお勧めします。

③語学面でのアドバイス

上記に同じです。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイです。次項で詳述します。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は非常に変わりやすいです。また、寒暖の差も日本より大きいです。現地の夏に行ったので日照時間は非常に長く、朝7時から夜21時まで明るいです。そのため治安も良いと思います。大学は町の中心部の北側にあり、騒がしすぎずとても良い場所です。メインで生活するLanguage Centreのすぐ隣には大きなスタジアムがあり。そこではスーパーラグビーなどが開催され、日本の感覚より比較的安価に観戦することが出来ます。交通機関は、基本はバスです。料金はゾーン制で、街中から離れるほど高くなります。基本は片道2.5ドル前後ですが、私のホームステイの家は少し遠く、4ドルかかりました。ホストファミリーの仕事場が近ければ送ってもらえると思います。鉄道は長距離のものだけです。食事はホストファミリーによりますが、平均的にそこまでひどくないと思います。私はかなり恵まれていた方で、ホストファミリーに小さい子供がいたため比較的栄養豊富な食事をとることが出来たと思います。カレーなども作ってくれたのでお米も食べられます。量は運動会などでたくさん食べる人にとっては少し足りないかもしれませんが。私が少し面食らったのは朝食で、23日間全てシリアルでした。はじめは足りないなと感じていましたが1週間もすれば慣れました。足りない場合は正直に言えば沢山くれると思います。昼食は私の家の場合昨晩の残りで、作る必要もなく基本的においしいものでしたが、一般的に他の学生は自分でサンドイッチを自作していました。毎日サンドイッチだと飽きるかもしれません。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特にありません、治安に関しては上述の通りです。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費は往復で170000円ほどです。ニュージーランド航空は比較的サービスの良い航空会社なので少し値は張りますが、おそらくあまりLCCが発達していないのとダニーデンへは乗り換えが必要になるのでニュージーランド航空を使うのがベストだと思います。プログラム代金として支払う約2200NZDに授業料教科書代家賃食費は含まれています。その他にかかる費用としては週末の観光旅行代(学校の代理を通してあるので少し高いかもしれない)、交通費(バス代)、スポーツ観戦など(20ドル程度)、自分でおやつなどを買う場合の代金等です。食事、飲み物、コーヒー紅茶などは日本より高いです。またあまり買うところありません。一番近い大きなスーパーは学校から徒歩20分弱です。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

プログラム既定のものです。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

UNIPOLというレクリエーション施設があり、学生証を発行した後は基本無料で使えます。大きなトレーニングジム(ウエイトの部屋とランニングマシンの部屋に分かれている)、体育館のようなコートが何面もあり、バスケットボール、バドミントン、卓球などが出来ます。一部バドミントンの羽などは購入する必要があります。ヨガやボクササイズなどのプログラムもあります。UNIPOLは早朝から22時ころまで毎日無休でやっておりLanguage Centreの隣にあるので非常に便利です。ほかにもOUSAという、もう少しクラブ活動的なものに特化した施設が徒歩10分ほどのところにあります。学校の近くにはオタゴ博物館というものもあり無料で地域の歴史などを知ることが出来ます。無料にしてはクオリティは高いと思います。有料の企画展のようなものもやっていました。週末は学校が代理店となりあっせんしてくれる観光旅行があります。私の時は1週目:クイーンズタウン、2週目:ミルフォードサウンド でした。日本人が多く殺到するため基本的にはどちらか一つの旅行しか行けない形式でした。ただ学校が間に入るだけあって値段は少し高いです。私はしませんでした。他の学生は自力で長距離バスや宿を予約し観光をしていた人もいました。私はミルフォードにはいきましたが残りの週末はホストファミリーとプールに行ったり、近くのビーチに連れて行ってもらいました。ビーチはいくつかありますが、アラズビーチというところが広くてきれいでお勧めです。またその他の観光名所としてオタゴ半島というところがあり、町からそう遠くないところにアルバトロスの巣やペンギンが見られるというスポットがありますが、ペンギンはみられる確率が低いうえアルバトロスも近くで見られるわけではないのであまりお勧めではないです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

質問にはきちんと答えてくれますし、リスニングの SCRIPT がほしいなどの申し出も快諾してくれました。環境は良いと思います。精神面や生活面のサポートも、専用の室のようなものがあつたので問題ないと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

上述の通りですが、充実していると思います。図書館は Language Centre から 10 分ほど歩きますが、夜遅くまで開いていますし、そんなに混雑もしていません。食堂はありませんが上述の UNIPOL の隣にカフェが併設されています。ただ値段はそれなりに高いです。コーヒーは 1 杯 3.7 NZD です。PC 環境も充実していると思います。Wifi は十分速いですし、LC をでても街中に大学施設が点在しているので結構つながります。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

総じて私は非常に満足していますし、貴重な経験が出来たと感じています。ただしホストファミリーによるところが大きいかもしれません。

まず、英語力に関してですが、環境は素晴らしいです、英語を喋らざるをえない状況、豊富な教材とやろうと思えば死ぬほど勉強できます。一方で、スピーキングを鍛えたい場合は少し工夫がいるかもしれません。学校には非常に日本人が多く(東大生のいたレベルのクラスの場合、クラス 18 人程度で 13 人程度が日本人)、他のレベルも合わせると 80 人ほど日本人がいたので、休み時間などは日本語が飛び交っていました。学校内は英語以外は禁止のルールがあるのに、です。もちろん日本語を話さない人がいるのでその人たちと話せばいいのですが、東大生でも結構日本語を使っている人はいたと思います。また、他の国の学生もそれぞれ母国のコミュニティを持っている場合も多く、仲間内で母国語を話したりもしているので、なかなか難しいです。英語を喋るうえで確実なのは先生やホストファミリーに話しかけることです。私の場合はホストファミリーが非常に気さくな方で、ほぼ毎日夕食後 2 時間くらいテレビを見ながらしゃべる時間があり、お互いの文化について質問したりと、非常に濃い時間が過ごせました。ホストファザーに日本の皇室制度について聞かれた時の困難さは印象に残っています。しかしホストファミリーによってはあまりコミュニケーションがないところもあったとのことなのでこればかりは難しいかもしれません。

異文化交流については、やはりホームステイというのが大きく、当たり前ですが普通の海外旅行よりも現地の文化にどっぷりつかることが出来ます。ホストファミリーは共働きでしたが両親とも 17 時頃には帰宅し、夕食の準備をするのは基本お父さん、という日本ではありえないような家庭でした。一方で、健康的な食事を心掛けると言いながら、夕食に結構な頻度でフライドポテトが出てきたのも、なんというか認識の差があつて面白い点でした。またクラスの中にもアルゼンチン、クウェート、中国、韓国、スリランカ出身の学生もいて、40代の方もいたので、彼らの話を聞くのは非常に面白かったです。

成長したことと言えば、月並みですが、他国の学生は先生の話をして自分のはなしを始めるので、積極性に驚かされました。また、留学前は自分は話す度胸がつけばある程度喋れるだろうと思っていましたが、実際は知らないボキャブラリーも多いし、日常表現などは知らないものが多すぎてまだ全く勉強が足りないなと自覚できたことも大きいと思います。

②参加後の予定

まもなく就職し仕事が始まるのですが、英語の勉強、特にスピーキング、より一層正確なスピーキングを目指したいと思います。また、せっかく IELTS 対策の授業を受けたので IELTS が TOEFL を受けたと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

短期留学であるならこのプログラムはベストであると考えます。英語学習に集中でき、ホームステイを通じて異文化交流もできます。費用も比較的安価ですし、現在の自分から一歩踏み出すには最適だと思います。3週間以上住むところも、生活リズムも話す言語も変えることは、少なからずあなたの中身に変化をもたらすはずです。

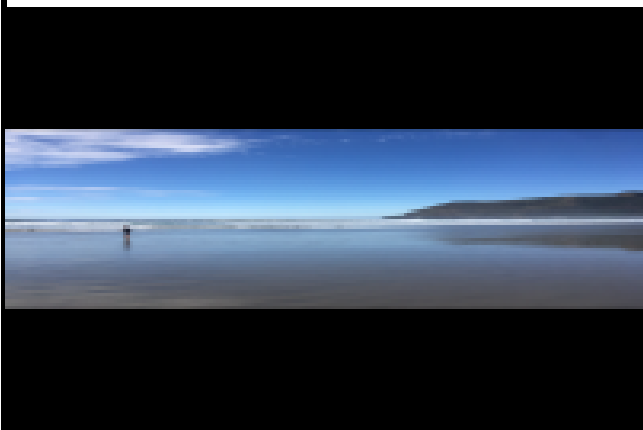
その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

アランズビーチとクラスの集合写真です。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 20日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	✓ 7. その他(未定)		

派遣先大学の概要

オタゴ大学はニュージーランド最古の大学。オタゴ大学所属のLanguage Centreに通って英語の授業を受けた。

参加した動機

留学を経験したことがなかったが、時間のあるうちに短期留学をしてみたかったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

指示されたとおりに手続きを行えば難しいことはなかったが、学費の支払いに少し手間取ったので早めに手続きを進める方が良いと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの申請は必要なかった

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬を持って行った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大が推奨する保険にのみ加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

3週間だったので特に手続きは必要なかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
出発前に一か月ほどオンラインで英会話の練習をした。また、申し込みの前にTOEFLのテストを受けた。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
意外と寒いので、防寒着や長袖を多めに持って行った方がいいと思います。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前中はGeneral English、午後はIELTSの対策の授業を受けた。おおむね朝10時から夕方4時までだった。授業はさほど難しくなく、宿題は最初は多いと感じたが最後の方には慣れた。オリエンテーションの日に簡単なテストを受けてクラス分けされたが、クラスの過半数が東大生だったことは少し残念だった。
②学習・研究面でのアドバイス
ノートやプリントを整理する用のファイルも配布されるので特に困ることはないかと思う。
③語学面での苦勞・アドバイス等
最初はホストファミリーとの会話についていくのが必死だったが、徐々に慣れた。同じLanguage Centreに通っているほかの国からの留学生はスピーキングが上手で驚いた。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイだった。ホストファミリーは夫婦二人で、そのほかに留学生が二人いた。皆さん本当にやさしい方でいろいろな面で助けてくれた。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
思っていたより寒く、半袖の服を持って行ったがほとんど着なかった。交通機関はバスがメインだが、あまり本数が多くないので大学まで歩くことも多かった。坂がとても多いが景色もきれいなので歩くのは気持ちいい。食事は三食ホストファミリーが作ってくれて、とてもおいしかったが量はあまり多くないと感じた。お金は現金を現地で両替したものをメインに使い、たまにクレジットカードも使った。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
ダニーデンはオタゴ大学の学生の街なので、治安はとてもいい。郊外には緑が多く、景色が本当にきれいでとても過ごしやすい街だと感じた。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券は20万円弱だった。授業料や教材、ホームステイ代等はすべて一括だった。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学から14万円支給された。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ジムがすぐ隣にあり、無料で利用できてとてもよかった。週末にエクサカーションがあり、クイーンズタウンかミルフォードサウンドのどちらかを選べる。そのほか、ジムで様々なアクティビティを予約することができる。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特に利用しなかったが、学生向けのサポート体制がしっかりしていることをオリエンテーションの日に感じた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

ジムや図書館などとてもきれいだった。Language Centreの中にPCもあり、休み時間や放課後などに自由に利用できる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

ホームステイをしたことが自分にとってかなり大きかった。現地の生活を体験できたし、ホストファミリーと日常会話を楽しむ余裕が多少生まれたと思う。ホストメイトと仲良くなれたこともよかったし、海外留学が初めてだったので今後また留学する際の準備や自信になったのではないと思う。

②参加後の予定

特に決まっていることはないが、また海外で勉強する機会があればぜひ参加したいと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ダニーデンの町はとても安全できれいなので過ごしやすく、ホームステイ等を通じて現地の人やほかの留学生と交流するととても良い機会になると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方を買っていったが結局あまり読まなかった。直前にネットなどでニュージーランドに関する基本的な情報などを少し調べていった。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年 4月9日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	国際本部ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界:不動産)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

本学の全学交換留学のパートナー校である。ニュージーランド南島のダニーデン市に所在する同国最古の大学。
同大学のラングエージセンターに通学した。

参加した動機

今後の進路を考える上で、海外大学への短期留学や海外プログラムへの参加をしたいと考えてたが、英語のスピーキングに関して不安を持っていたため、短期の語学留学を通して自信をつけたかったため。
また、ホームステイを通して、日本とは全く異なる環境に触れ、生活や文化などを体感したいと考えたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申請書や成績証明書など。早めに手続きをしないと不備があった際に締め切りを過ぎてしまうため気をつけた方が良かった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

していません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校側に用意していただいた海外旅行保険に加入した

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEFL71点程度。英語のニュースなどを聞いてリスニングの練習をしていた。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ホームステイの食事が合わないことがあるので、少しは日本食を持参した方が良いと思う。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
授業は語学のテキストに沿って文法やスピーキングの練習をした。 オタゴ大学の学生が聞く一般の授業も聴講することができ、とても面白かった。
②学習・研究面でのアドバイス
オタゴ大学の授業は様々な分野のものがあるので、興味があるものはたくさん行ってみると面白いと思う。
③語学面での苦労・アドバイス等
ホームステイ滞在中は家族に積極的に英語で話したり、わからないことがあればどんどん聞いたりした方が良いと思う。また、面白く盛り上がりそうな話題をいくつか用意しておくが良い。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイ
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
寒暖の差が激しかった。大学周辺は治安も良く、ショッピングなども楽しめた。学校までのバスは本数が少なく、時間通りに来ない。食事はホームステイの家族が提供してくれるものであったが、あまり口に合わなかった。お金は基本的に現金で扱っていたが、カードも持って行った。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
寒暖の差が激しかったので、服装には気をつけた。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム代22万、航空券14万、旅行やお土産など娯楽10万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学海外奨学派遣事業

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は学校のプログラムか個人で旅行に参加した。様々なところに行けてとても楽しかった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とても良かった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

整っていた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語に対する不安感がなくなった。日本人も含めて他大学など様々な人と交流することができて、とても良い経験になったと思う。考えやこれまでの経験などが異なる人と関わることがほとんどであるが、積極的に関わることができた。

②参加後の予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

プログラムに参加する時には不安に思うこともあると思います。プログラム中に辛い経験をしてもそれがすべて自分の成長にも繋がると思うので、積極的に参加し、様々なことを経験してください！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月18日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 出版社)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

University Otago Language Centreは、ニュージーランド南島第2の都市ダニーデンにあります。キャンパスは、オタゴ大学内の敷地内にあり、ニュージーランドの中でもトップクラスを誇る設備の整った付属校のキャンパスの中で、様々な国からの留学生と交流を深めることができます。
 施設内にある自習室、図書館、コンピュータールームやスポーツジム等の敷地内の様々な施設は、学生証があれば、無料で利用できます。
 また、オタゴ大学を始め、ニュージーランド全国の大学やポリテクニクに進学するための、ファウンデーションコースも設置されており、入学には指定の英語力が必要となりますが、しっかりと勉強し一定の条件を超えて卒業後は、大学の入学が保証されます。

参加した動機

説明会に行った際、英語のレベルを問わないプログラムとのことでしたので、他のプログラムに比べて挑戦しやすく感じられました。また、大学で講義を受講できる一方で、語学学校に通うこととホームステイがメインの目的だったことにも惹かれました。さらに今回のウィンタープログラムの中で一ヶ月という最長期間が設定されていたことも決め手となりました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類等は早めに用意・提出することをおすすめします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

今回のプログラムではビザは不要でしたので割愛します。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

保険適用外となるため、歯科検診を事前に受けておきました。また、酔い止めや胃薬などは自分に合うものを渡航前に用意しておくのが良いと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

加入が必須だった学研災付帯海外留学保険と、OSSMAに加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
<p>ウィンタープログラム申請書へのサインを文学部長と担当教員の方をお願いいたしました。また、渡航届けを出発前に文学部教務課へ提出しました。</p>
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
<p>プログラム直前と直後にTOEICを受け、語学力の成長を確かめました。東大の英語の授業を受けていたので、積極的に話す練習をしておきました。</p>
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
<p>ホームステイの場合、ホストファミリーへのお土産や、自分の地元を紹介するパンフレットなどを持参すると話題作りに役立つと思います。私は、折り紙や万華鏡をプレゼントして、一緒に遊んだりしました。</p>
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
<p>プログラムのメインは語学学校へ通うことと、ホームステイをすることでした。今回のプログラム期間中、オタゴ大学ランゲージセンター生徒の8割ほどが日本人で、休み時間は母語で話すなどつい甘えてしまった部分がありました。その分ホストファミリーとなるべく多く会話をするようにしました。</p>
②学術研究におけるアドバイス
<p>オタゴ大学の授業も積極的に受講すると良いと思います。</p>
③語学面での苦勞・アドバイス等
<p>日本人同士での英会話に対し、他国の人との英語のコミュニケーションは相対的に難しく感じられました。英語に自信がないと、声が小さくなりがちですが、伝えたいという気持ちを持って、大きな声ではっきりと伝えることがまずは大切かとおもいます。</p>
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
<p>ホームステイ。ホストファミリーの方が大変親切で、とくに不自由は感じませんでした。</p>
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
<p>夏の終わり頃でしたが、ダニーデンはそれほど暑くなく、雨の降った日は暖房をつけるくらいでした。大学周辺は歩いて10分くらいで市内中心部につく立地の良い場所でした。私はバスで通学していましたが、一ヶ月で6000円ほどの出費になりました。食事はとても美味しかったのですが、日本に比べて物価が高かったです。</p>
③留学中の危機安全管理について
<p>常にパスポートを携帯するようにしていました。</p>

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費が15万円、プログラム費用(語学学校費用+ホームステイ費用)は20万強でした。食費、交通費や娯楽費用は合わせて6万円ほど使いました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学海外奨学派遣事業から14万円支給されました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は友人と遠出をしたり、ホストファミリーに市内の観光スポットへ連れて行ってもらったりしました。放課後に図書館でニュージーランドに関する本を探して、読んでみたりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面・学習面のサポートはコンピュータを用いた予習・復習制度など、十分になされていたと思います。またホストファミリーと生徒の双方にホームステイのルールブックが配布されており、互いにプライベートを守るように心がけることができるようになっていました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

オタゴ大学のランゲージセンターは設備が新しく、図書館・スポーツ施設・カフェ・PC環境など十分に整っていました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

これまで留学に憧れはあっても、なかなか挑戦できずにいましたが、今回のウィンタープログラムでは語学力を伸ばすことを目的にしており、参加することを決めました。これまで授業とサークル活動に大学生活の大部分の時間を費やしてきたため、今回のウィンタープログラムで同大学内の異なる学部の方々と知り合えたり、ランゲージセンターで様々なバックグラウンドを持つ人たちと交流できたとは貴重な経験となりました。留学を通じて、「思っていたよりも英語が通じる」という実感を持つことができたため、これからの語学学習に対する意欲も増進しました。

②参加後の予定

4月上旬にtoeflとtoeicを受ける予定です。また、IELTSも受けようと思っています。東大の英語の授業でスピーキング能力を高めたいと思っています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

東大の留学制度を一度は利用することをお勧めします。奨学金制度も充実しており、大学内外の人と知り合えることで、語学学習や課外活動に対する意欲に変化をもたらすことができると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

go globalのフェイスブックを定期的に見るようにしていました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年4月8日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

大学というより大学周辺に関することですが、ダニーデンはほぼ大学しかない街なので悪く言えば退屈ですが、良く言えば自分のやりたいことに集中できると思います。

参加した動機

英語運用能力向上のため、またホームステイ等含め最もコストパフォーマンスが高いと思ったためです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

余裕を持って手続きを進めると安心です。私は振込等ギリギリで少し焦りました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

安く航空券を購入するには早めにジェットスターで探すべきだと思います。ニュージーランド航空だと10万円くらいしました。基本的に手続きは簡単でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にないです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定の海外保険に加入しました(8000円くらい)。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教務課に留学願という書類を提出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
IELTS6.5でした。またスピーキングの経験はゼロでした。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
Kindle等タブレットを持っていると時間のある時に色々な本を買って読めるので便利でした。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
基本的には教材を使って先生の指示のもとゆるいディスカッションのようなものを行うのがメインでした。またオタゴ大学の授業を聴講する許可を得たため、語学学校の授業を抜けていくつか潜っていました。
②学習・研究面でのアドバイス
日本人が多かったので英語を使う強い意志がないと成果が得られにくいと思いました。
③語学面での苦勞・アドバイス等
いわゆるILETSやTOEFLのリスニングではなく会話を聞き取る訓練をしていくべきでした。また発音に関しても一通り訓練していくべきでした。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
1人部屋を与えられたので快適でした。ステイ先の人々も優しく、食事も特に期待していなかったため十分満足でした。ただ私は日本人とのステイだったため、その点は少し残念でした。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
向こうでは夏の終わり頃(2.3月)でしたが、想定より涼しく秋の服装がベストかもしれません。交通はバスのみで食事は特に期待すべきものはありません。決済はほぼクレジットだけで大丈夫でした。また日が長いのが印象的でした。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良く、衛生も日本と比較しなければ十分良いと思います。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券15万円(復路で国内を2箇所旅行したため)、授業、ステイ、3食を含めたプログラム費20万円、その他週末の旅行や諸々8万円ほどです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

14万円東大から自動的にいただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

体育館が無料で使えたため放課後によく利用していました。また週末はクイーンズタウンへ行ったり、市内の映画館へ行ったりしていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

担任の先生が週1回ほどマンツーマンで面談のようなものをしてくださいました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

パソコンも使える図書館が利用できました。また大学の敷地ではWi-Fiも利用できました。体育館に関しては上記の通りです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今後の語学の勉強で何をすべきかに関してなんとなくイメージを持ってました。また東大生も多く、進路についてなど色々刺激を受けました。個人的には1ヶ月海外に滞在する経験がなかったためその生活のイメージを持つことも収穫でした。

②参加後の予定

全学交換留学にて夏から10ヶ月ほど留学し、帰国後卒論を執筆し修士課程へ進む予定です。語学に関してはフランス語とドイツ語も向上させたいです。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日本人が多いため強い意志を持たないと成果を得にくいと思います。私は割と日本語を話してしまったのでその点少し後悔しています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特に参照していません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2018年3月19日

東京大学での所属学部・研究科等：	理学部	学年（プログラム開始時）：	学部4
参加プログラム：	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学：	オタゴ大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職（医師・法曹・会計士）
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業（業界： ）	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要
ニュージーランド南島のダニーデンにあるオタゴ大学が派遣先大学。大学内のLanguage Centreに通う。
参加した動機
英語能力の向上、とりわけspeaking能力の向上を図るため。
参加の準備
①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）
②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）
1ヶ月未満の滞在であれば特別な手続きは不要。
③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）
特になし。
④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）
学研災付帯海外留学保険
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）
特になし。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）
本プログラムは語学学習が主目的であるため、格段の準備はなし。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
脱ぎ着しやすい服装(気温の変化が激しいため)、リップクリーム(空気が乾燥してるため)
学習・研究について
①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）
平日週5日。朝10時から70分間のお昼休みを挟んで、週3日は4時まで、週2日は3時まで授業がある。1コマ50分。 午前中の3コマはGeneral Englishと呼ばれる授業で、Reading/Listening/Writing/Speaking/Vocabularyが同程度の重み付けで行われる。午後の2コマ、あるいは1コマはTOEICあるいはIELTSの対策授業となる。私はIELTSを選んだので、Reading/Listening/Writing/Speakingについて同程度の重み付けで授業が行われる。 毎週金曜日にVocabularyとGrammarのテストがある。一度Speakingのテストもあった。
②学習・研究面でのアドバイス
時期のせいであると思うが、比較的日本人が多く、全体の7割程度は日本人であった。Language Centre内では英語しか使ってはいけないことになっているが、外国籍の人と英語で話そうと思うと、主体的な行動が求められる。
③語学面での苦勞・アドバイス等
語学を学習しに行っているのに、苦勞というもおかしな話ではあるが、非ネイティブの外国籍の人の英語は時に非常に聞き取りづらいことがある。LaguageCentre内の先生方の英語は非常に聞き取りやすい。聴講した大学の講義については、先生によっては理解が非常に難しいことがあった。
生活について
①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
ホームステイ。1日3食は用意される。家庭環境はステイ先により様々。自分の部屋が与えられ、個人的には非常に快適であった。ホスト先のネット環境は使用できるが、通信費として月20ドル程度支払う必要がある。家庭によっては、シャンプーなどをスーパーで買わなければならなかった家庭もあったよう。
②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
1日のうちでの天候や気候の変化が激しい。脱ぎ着しやすい服装や雨具の用意は必須。 交通機関は主にバスを利用することになる。交通系ICカードのようなものがあり、割引率が高いので普段はそれを利用することになると思うが、チャージが基本的には現金でしかできないので、現地で日本円をNZドルに両替し、チャージしていた。ほとんどの場所でクレジットカードは使えるが、私が経験した中では、先述のチャージと街中のアイス店とパイ店でのみクレジットカードが使用できなかった。 食事は基本的にホスト先に用意していただくことになる。時折外食したが、様々な国の料理が大通り沿いにある。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
<p>夜7時くらいはまだ明るい、かなり人気なくなる。しかしながら、身の危険を感じたことはない。治安は良いと思われる。空気が乾燥しているので、その対策はあった方が良くもしいない。</p>
④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
<p>プログラム費用の他の概算で、合計約20万円 【必要経費】 航空費：13万円、現地での交通費：7000円、時々のお食：5000円、Wi-Fi使用料：2000円 【その他】 ラグビー観戦：1600円、運動着：500円、MilfordSoundへのエクスカージョン参加費：3万円、Queenstownへの旅行：2万円</p>
⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
<p>JASSO：14万円</p>
⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
<p>週末は3回あったが、大学側が用意したMilfordoSoundへのエクスカージョンに参加したのが1週、自力でQueenstownに旅行に行ったのが1週、ホストファミリーとドライブに行ったり市内を観光したのが1週であった。Queenstownへ行くエクスカージョンも大学側は用意しているが、費用を鑑みても自力で行った方がお得なように感じる。</p>
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
<p>取り立ててサポートを必要とする場面はなかった。</p>
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
<p>普段通うことになるLanguageCentre内には図書館のようなものがあり、DVDや本などを無料で楽しむことができる。しかしながら、この図書館は5時で閉まる。大学内にある大きな図書館はもっと遅くまで開いている。LanguageCentre横に総合スポーツ施設(東大で御殿下のようなもの)があり、無料で様々なスポーツをできる。運動着や運動靴を持っていくことを強く勧める。</p>
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>日本において英語で会話をする機会はほとんどなかったので、こちらで英語で話す機会を一定期間持てたことは有意義であった。能力的な進歩は定かでないが、意識的な面では大きな変化があった。同時に、ニュージーランドの文化的な点にもよく触れられたと思う。</p>

②参加後の予定

大学の講義を聴講して、まだまだ英語能力が足りてないことを痛感させられたので、今後も引き続き学習を続けたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

まだ英語能力が十分ではなく、他の英語の能力を要求するプログラムへの参加が難しい人にとっては有意義なプログラムであると思う。一方で、一定の英語能力がある人は、自身の専門に沿ったプログラムに参加した方が有意義であると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月18日

東京大学での所属学部・研究科等:	理学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学(New Zealand)
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

医学部や文系学部の名門校として知られる。街全体の内25%ほどが大学関係の施設となっており、住民の雇用の大部分を大学が創出している。学生街のため住民の平均年齢も比較的若く、学生をサポートする環境が整っていたことが印象的であった。

参加した動機

ウインタープログラムには5校ほどの選択肢があったが、ニュージーランドは地球科学的に面白いということを選択した。約1か月にわたる滞在をするのだから、その土地の気候や地形、観光スポット、etc諸々が面白いものであるに越したことはない。プレート境界に位置し見ごたえあるダイナミックな地形に富み、また高緯度帯特有の気象や天体の見え方、またフィヨルドのような特徴的な地理を目の当りにできる。さらに言えば、地球科学に留まらずNZは固有の生物種や独特の民族史を有しており、留学先としては興味をそそる内容に富んだ国であったことが挙げられる。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課の方々が非常にわかりやすく説明してくださるので情報の見逃しにだけ注意すれば良いだろう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

自身はビザは必要なかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

点鼻薬と化粧水を持参したが、化粧水は内容量が大きかったため入国時審査により空港で捨てられてしまった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学に加入した(正式名称は覚えていない。)

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属学科の講義・試験・その他欠席不可なガイダンス等の予定が被っていると大変なので注意した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

試験で忙しくて全く準備できなかったが何の問題もなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

入国時に持ち込めないものを予め把握しておくべき。NZは特に厳しいらしいが、申告さえすれば大抵のものは持ち込めた。留学に限らず、初めての環境に溶け込むためには話のタネを用意しておくことが重要だろう。即興でも構わないが。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

日常のSpeakingやListeningが特に有益であったように思う。授業では割と基礎的なことばかり行うので、積極的に自身から難しい話題に話を発展させてディスカッションしたりすると得られるものが大きいのではないだろうか。大学側の用意している英語の講義自体はあまり内容は濃くなかった。

②学習・研究面でのアドバイス

座学に割く時間は極力ゼロにして、どんどん身の回りの非日本人と話すことを勧める。語学プログラムなのでアジア系の人が多く、比較的会話スタートのハードルは低いと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

現地人は訛りがひどく「eight」を「アイト」、「today」を「トゥダイ」などと発音する。また夕食のことをteaと呼ぶので、「〇〇, do you want to have some tea?」と聞かれたら迂闊に「No」と言わない方がいい、ご飯を食べるタイミングを見失ってしまう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイのプログラムであったが、学生によってステイ先の環境・待遇は大きく違っていた。正直ハズレの家庭もあるようなので、過度な期待はしないでよく。何かトラブルがあった場合には英語でProblem Solvingする課題を与えられたと思って取り組むとよい、解決した際にはカフェで自分を甘やかそう。(自分の場合にはホストマザーが契約済みのランチの用意を怠っていたのでcontractを見せて話し合う必要が生じた)

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

過ごしやすい。ただし寒暖差が激しいので着こなしやすいものを持参するとよい。ジムが無料かつ街には娯楽が殆どないので、筋トレを習慣づける圧倒的チャンスだと思って通うとよい。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はかなり良い。ただし一度だけ街中で黄色人種を蔑むような声を走行中の車からかけられた。それはそれでよい体験であったが、いったい彼らは何をもって黄色人種より自身が秀でていると感じるのだろうか。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
<p>バスの交通費が非常に高いので一日700円くらい要した。食費も高く、ランチを食べるならサンドイッチなどで600円、カレーなどのhot mealは1000円超えると思うべき。ペットボトル飲料が異様に高いので、ほとんどの人はペットボトルに冷やした水道水を入れて持参していた。</p>
⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
<p>JASSOの支援を頂き往復の交通費に相当する14万円は浮いた。しかしプログラム費用や休日における旅行など諸々の出費で30万は自費から出たものと思われる。</p>
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
<p>ジムではコートを借りることもでき、筋トレ以外にも友人を誘って遊べるスペースが多々ある。また、ホストファミリーと共に南極周極流にのって海を泳いだりすることもできた。南極周極流に流される経験はNZ南端くらいでしかできないのではないだろうか。クイーンズタウンやミルフォードサウンドに出かけたりもしたが、総じて地形学や生物学に興味ある人はよく楽しんで、そうでない人はお金を払ってアクティビティに参加しないと退屈かもしれない。</p>
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
<p>慣れていることもあってとてもよかった。様々な学部の講義を聴けるのはこのプログラムの特徴であろう。</p>
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
<p>よい。PC環境についてはリモートアクセスも可能で、帰国後も講義で扱った音源などを復習できる。</p>
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>ニュージーランドと比較することでかえって日本の優れている点を多々浮き彫りにすることが出来た。留学前はいずれ日本を出立して海外の研究機関にて活動したいと思っていたが、留学後には自分が思っている以上に、自分が日本での日常生活を好んでいたことを自覚した。いずれにせよ国内外問わずグローバルな研究活動が要される時代であるから、今後も国際的な人材として活躍できるよう邁進しようと思う。</p>
②参加後の予定
<p>博士後期課程を修了するまで、あるいはポスドク時に再び海外に出て研究活動に邁進するつもりである。恐らくは欧米となる。</p>
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
<p>NZは総じて興味関心を引き立ててくれる環境であったが、如何せん日本の若者には刺激の足りない生活環境かもしれない。また食事に関しても日本食のような奥行きのあるものには中々巡り会えないので、ある程度覚悟しておくか、持ち込み可能なインスタント味噌汁などを調達しておくといいかもしれない。現地のMiso Soupは味噌が薄く、出汁も効いてなく、ただの野菜スープでしかなかった。</p>

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

とくになし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年 4月 13日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

the university of OTAGO はニュージーランドで最も古い大学である。今回はオタゴ大学が運営する語学学校に通った。

参加した動機

研究室に配属されるにあたり、語学力を伸ばそうと思ったのが主な理由である。また、農業が盛んなニュージーランドを訪ね、日本と比較したいとも考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

授業料の送金に手間がかかるので早めに行うと良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大から案内のある保険に申し込めば良い。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

農学部では出発前に海外渡航届を提出する。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特にニュージーランドの場合はアクセントがあるので、事前にリスニングを強化すると良い。イギリス英語を勉強しておく役立つ。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

スマホを現地で使用したい場合はローミングを日本で済ませておくのも良いが、SIMフリーのスマホであれば語学学校でSIMが無料配布される。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

オタゴ大学の語学学校の授業が10時(たまに9時)から3時または4時にかけて行われる。授業は general englishとTOEFL or TOEICである。東大生全員が英語の大学講義を受けられるとするAdvanced classに配属されたのでレベルはそれほど高くない。Language Center という図書館のような場所は5時までしか開いていないので不便だが、英語を勉強するための洋書などが置いてある。

②学習・研究面でのアドバイス

語学学校は春休みということもありほぼ日本人なので、ボランティアやインターン、クラブ活動などで英語を積極的に話す機会を設けた方が良い。

③語学面での苦勞・アドバイス等

語学学校では日本語が飛び交う。徹底して英語を話すか課外活動を行う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

東大から紹介されたホームステイである。肉が食べられないことを伝えるとベジタリアンの家になる。快適であったが大学から30分ほどバスでかかるのが難点であった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

天気は変わりやすい。夏とはいえ日本の夏より涼しい。大学周辺はお店がたくさんあるが、17時で大体が閉まる。バスの本数が少なく、ホームステイ先によっては20時が最終バスのところもある。ベジタリアンの家に泊まっていたので、不自由なく野菜や果物を食べる事ができた。日本食のレストラン、お店もある。お金は現地で両替をしたが、クレジットカードが便利。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺は酔った大学生で治安が悪いと言われるが、日本と同じ程度に治安は良い。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費10~15万円、授業料20万円、交通費一日500円ほど。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学よりJASSOを紹介された。14万円支給。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

日本語を勉強するサークルに参加しメンバーの家に遊びに行ったり、大学の日本語の授業のボランティアをしたりした。ジムが無料で使えるので、ボクシングのレッスンに参加した。休日は町の観光やファーマーズマーケットに行った。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

体制は整っている。語学学校がキャンパスの外れにあるため現地の学生と話す機会がなかったのが残念である。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

整っている。語学学校の図書館が17時に閉まるのは早すぎる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

仕事とプライベートの考え方、人の尊重の仕方、日本語の仕組みなど日本にいて当たり前と感じていることへの違和感が芽生えたのが大きかった。自身の環境を相対的に考えることができた。

②参加後の予定

研究室に配属されるので、広い視野を持ちつつ研究の手法を学んでいきたいと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

語学学校は日本人ばかりで日本語の勉強にしかならず、現地の学生はいないので積極的に外に出て英語を磨いてください。ただしニュージーランド人はシャイです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月13日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:メーカー)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

オタゴ大学に付属した語学学校(language centre)に行く形であり、そこで勉強する。オタゴ大学の施設も同様に使える。緑が多く、とてもきれいな大学です。

参加した動機

①英語を勉強したかったから。本当は学部生の中に長期で留学をしたかったが、部活等があり行けなかったの
で、最後に短期で留学に行きたかった。また社会人になってから留学に行けたら行きたいと考えているので、その前に一度経験したかった。②このプログラムがホームステイを経験できるものだったので、ほかのより生の英語に触れられる機会が多いと思ったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類が多いので余裕をもって締め切りまでに出すこと。志望動機を重視するとおっしゃっていたので、なんでもそこに行きたいのかを明確化しておくといいと思います。参加決定後も書類が多いですが、書き方等は丁寧に指示して下さるのでそれに従ってください。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人は必要ないです

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に何もしてないです。解熱剤と整腸剤は一応持って行きましたが全く使いませんでした。衛生面は心配しなくて大丈夫かと思えます。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大生全員が加入必須の保険があり、それに加入しました。それ以外は特に加入してませんでした(クレカにも保険が付いていたので)。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

経済学部は留学に行く旨を書類に記入して教務課に伝えます(教務課に行けば書類はもらえます)。ゼミの先生にも口頭で報告しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

行く前の語学レベルはTOEIC730点のみ。ただ、点数は選考に際し重視されていない(そういう試験受けたことない人も何人かいた)ので、なぜここに行きたいかをしっかり考えるべきかと思います。勉強に関しては4月から社会人で、入社前に英語の課題があったのでそれを使って英語の復習をしていました。またAタームに東大内で英会話ができる講座(SEL)があったので、それに参加して英会話の勉強も少ししました。TEDとかも暇なときに見ていました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的にはネット等でリストを見て、それを持って行けば大丈夫です。その他アドバイスとしては①ホームステイなのでお土産を持って行くといいと思います。②一か月の滞在なので、爪切りや耳かき、部屋用サンダル(海外は室内も靴です)などは役立ちます。③消耗品に関してはシャンプーやボディソープは自分のを持っていきました。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

他大、海外大も含めて人数は100人くらい? 来てましたが、9割日本人で、語学学校内はかなり日本人多めです。クラスが5レベルに分かれ、初日のテストの結果を基に決められるのですが、東大生は全員一番上のクラスでした。1クラスは15人くらいです。月曜から木曜の午前中は英会話や文法、作文やリスニングなど様々なことをやります。英会話のウェイトが大きい印象で、日本人以外の国籍の人がバンバン発言するので、負けまいと頑張りました。金曜日は最初にその週の復習テストがあり、その後一番上のクラス合同でグループに分かれ課題をやる形式でしたが、内容が凝っていて、頭を使うものが多く面白いです。午後はTOEICとIELTSのコースに分かれその勉強をします。私はTOEICだったのですが、リスニングの問題を多くやりました。宿題は先生によりますが、基本的に多いです。文法、リスニング、リーディングと満遍なく出されます。予習等は必要ないですが復習はマストです。なお通常の授業に加え、週に1回、オタゴ大の教授がいらしてNZの歴史や自然、現状について講義をしてくださいます。また、自分の興味のある分野の授業にも追加で参加することができます(最後の二つは東大生限定)。

②学習・研究面でのアドバイス

宿題は難しいものはなく、多角的にやる感じです。英会話に関してはホストの方々とテレビ見たりしながらたくさんしゃべるのが一番楽しく勉強になったと思ってます。積極的に話して楽しんでください!

③語学面での苦勞・アドバイス等

語学学校内は日本人が多いので、休み時間とかは日本語になりがちです。日本人以外にも海外から来ている方がいますが、その人たちはかなりspeakingが上手なので仲良くしてしゃべると楽しいです。昼休みが70分と長いので、友達とご飯を食べた後の時間や放課後の時間を活用してILC(下参照)に行きDVDを見ました。ディズニーのアニメは英語が難しくなくおすすめです。また、NZを舞台にした映画もいい機会なので見るといいと思います(ロードオブザリング、ホビットなど)。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

このプログラムの参加者はみんなホームステイで、応募の時に希望の家族構成が選べます。ステイ先は自分一人の人もいれば他の日本人大学生やオタゴ大の学部生がいる家など様々です。ホストの人は優しく、いろんなところに連れて行ってくれる人でした(オタゴ半島の観光やスーパーなど)。シャワーに関してはなぜか10分以上は浴びないように注意されました(これはみんな共通です)。その他に関しては、うちは特にルールや門限もなく、楽しく快適に過ごさせてもらいました。クッキングやガーデニング、買い物も手伝ってくれたのが、個人的にはかなりいい英語の勉強になりました。またステイ先の部屋はかなり大きく、プライベートの時間もきっちり尊重してくれるので何一つ不満はなかったです。ただ、みんなの話を聞いていると多少の当たりはずれはあります。その他特筆することとしては、朝ごはん、昼ご飯は自分で作る家が多いです。また学校からは大体バスで2,30分、歩いて1時間~1時間半くらいの立地が多いです。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

①気候…かなり気温の上下があります。1か月でスカッと晴れたのは半分もないくらい。曇りや雨の日が多いです。気温も雨で冷え込むと12,3度、晴れて暑くなると25度くらいまで上がります。日差しはかなり強いです。なので、服は調節しやすいものを多めに持って行くといいです。②大学周辺…町の中心までは歩いて20分くらい。スーパーや飲食店、映画館、お土産屋などそろっています。③交通機関…基本バス移動です。家から学校まではバス移動なのでそのお金は用意しておいてください。時間はピーク時は20分に一本くらい来ますが、夜になると一時間に一本だったりします。④食事…朝はシリアルやパンを勝手に食べる感じ。昼は昨日の残りを詰めたり、サンドイッチを自分で作る家がほとんど。夜はホストが作ってくれます。パンが多いので、最後の方は少し飽きてきますが、ご飯はまずくはないです。⑤お金…現金は2万円ほどでいいかと思います。クレカがどこでも使えます。ATMは街中どこにでもあります。物価は若干日本より高いか同じくらいのイメージです。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は平和なことこの上ないので、安心してください。人口の20%が学生の町です。医療機関に関しては、語学学校に併設の医療相談所があります。学校の真横にタダで運動できる施設(筋トレからコートスポーツまで)があり、運動したい人はそこでリフレッシュできます。気分転換に歩いて帰っている人もいました。晴れの日には気持ちいいです。

④ 要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃15万、授業料・教科書・ホームステイ、食事…21万、交通費(家から学校までのバス代)…8,000円くらい(現金じゃなくてバスカードを買えば安く乗れるので、それを買って下さい)、観光、娯楽費…7.8万(ミルフォードサウンド、クイーンズタウン、市内観光、お土産代)

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから14万円。成績のスコアが2.0~2.3でも、書類書けばお金きちんともらえるので、ちゃんと書いてください!!

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

学校のすぐ横にスタジアムがあり、そこでラグビー観戦しました。迫力満点でとてもいい経験になったので、機会があったら行くといいと思います。週末はオタゴ市内観光、クイーンズタウン、ミルフォードサウンドに行きました。どこに行っても自然豊かで素敵なところでした。市内は、博物館や植物園、ビール工場や駅舎があり、街並みもきれいなのでそこそこ楽しめます。半島の方に行くとかザランやペンギンが見れます。学校側がクイーンズタウンとミルフォードサウンドのエクスカッションを企画してくださり、どちらか一方に行けるのですが、これはミルフォードサウンドに行く方が断然いいです。クイーンズタウンはダニーデンから近くて行きやすいですし、ミルフォードサウンドの景色は圧巻です。ぜひ行ってみてください!

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

かなり手厚いです。困ったら相談すればいつでも助けてくださいます。日本人のスタッフもいます。先生も皆さん優しい人ばかりです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

充実しています。語学学校内にILCという自習室(PCルーム)があり、そこでDVDが見れたり本が借りられます。本やDVDの種類はかなり豊富です。授業でやったリスニングの音源もパソコンに全部入っており復習もできます。大学の方の図書館やPCもいつでも使えます。学校の真横には運動施設があり、何でもできるのでいい気分転換になります。食堂はありませんが、学校内にテーブルや冷蔵庫、レンジはそろっていて便利です。また、カフェも併設されており、そこに座席も沢山あります。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

上にも書きましたが、ホームステイを通じての英語の学習が一番勉強になりました。日常生活を共にするので、その中でこんな風に表現するのか！こんな使い方すればいいのか！など発見が多く有意義でした。語学学校の授業は工夫されたものが多く、楽しく勉強できました。アクティブなものが多いので常に頭を使う分大変ですが、周りの英語上手な人からいい刺激を受けられました。また、東大生向けに用意してくださったNZの講義も面白く、日本と比較しながら様々な側面を知れました。一か月ですのでそこまで自分が成長した実感はありませんが、これからのモチベーションにもなりますし、次につながるいい経験になりました。また、今回のプログラムを通じてできた友達も多く、様々な人と交流できたのも大きな財産です。

②参加後の予定

四月から社会人です。海外留学も考えており、今回の経験を生かしていきたいです。英語の勉強はまだまだと痛感したので、少しずつコツコツ続けていく予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

奨学金も手厚く、内容もかなり充実したものであったので、興味があれば参加すると思います。語学学校だけでなく、ホームステイを通じての英語学習はいい経験になると思います。また、多くの人と仲良くなることもできるのも一つ大きなメリットだと思います(東大だけでも今年の参加者は32名いて、学年や学科もバラバラです)。

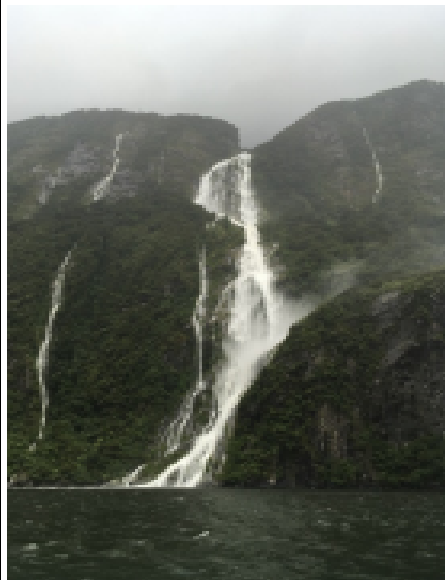
その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

①地球の歩き方(本)。便利なので持って行きましょう。②i-sight(アイサイト)と言うNZの総合観光案内所が各町の中心部にあるので、それはかなり便利です(様々な情報が手に入るだけでなく、土日で遊びに行く時などは宿やバスを手配してくれます。しかも学割使えます)。③オタゴ大のプログラムは今年が初めてで、ステイ先は様々なので、ほかの人の体験記もよく読んでおくと思います。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

ミルフォードサウンド。写真だと伝わりにくいですが、とにかく圧倒されます



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 金融)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランド最古の大学で、医療系の学問で有名。キャンパスがとても綺麗です。

参加した動機

将来的に英語を使う仕事に就くこと、また海外大学院への進学を考えているため、卒業までの短い期間ながら英語力を上げる機会が欲しかった為。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

サイトに載っている通りに進めていけば問題はないと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬のみ持って行きました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

指定されたものだけ入りました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

1ヶ月留学に行くため、書類の提出がありました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

ホームステイなので、英語の点数うんぬんよりも、ある程度日常会話が話せることが重要だと思いました。独特な訛りがありますが、その存在を知っていれば、問題ないと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

お土産は喜ばれるので、ぜひ。子供達にはコアラのマーチがなぜか好評でした。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中はgeneral english、午後はIELTSのクラスを取りました。大学の授業を自由に聴講できるので、午後は半分ほど大学の経済の授業を聞きに行っていました。ある程度自分の専門科目の知識があると、面白いと思います。ただ、英語で行われる講義は探せば東大の大学院、学部にもあるので、留学前から受けて慣れることをお勧めします。

②学習・研究面でのアドバイス

日本人が多いプログラムなので、どの程度日本語を使う機会を制限するかは、個人次第です。

③語学面での苦労・アドバイス等

ホストファミリーの話す英語、リスニングテストの聞き取りには少し苦労しました。英語なので慣れれば大丈夫です。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

シングルマザーで犬二匹、猫二匹がいる家でした。優しく、ご飯の美味しい家庭で不満は一切ありません。週末には旅行に連れて行ってくれたり、親戚の子供達が来てくれて、会話に溢れた生活でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

意外と寒いので、服の用意には気をつけてください。1日の中で寒暖差が激しいです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気つけた点など)

治安は日本レベルだと思います。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券15万円+授業料など諸々22万円=37万円。奨学金を14万円頂けました。旅行以外での生活費はほとんどかかりません。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
14万円東京大学から頂きました。ありがたい限りです。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
旅行以外では、スーパーラグビーを見に行ったり、大学新入生のオリエンテーションに潜り込んだりと色々積極的に動いていました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
しっかりしていると思います。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
スポーツ施設がとても充実しているので、ぜひ利用されるといいと思います。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
私はこれまであまり英語でネイティブスピーカーと話す機会がありませんでした。そのせいでネイティブスピーカーに自分の英語が日常会話レベルで本当にしっかり通じるのか自信がありませんでした。その点、ホームステイを通して十分に会話の機会が得られ、自信を得られたことは本当に良かったです。その点、今回の留学の目標は達成でき、満足しています。同時に、ビジネスレベルの英語には到底届かないこともよく分かっているので、今後も努力していきたいと思います。
②参加後の予定
政府系金融機関に就職します。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
ホームステイなので、英語で話す機会は自分で作ろうとすればたくさんあります。英語で話す機会、自信がない方にはお勧めします。逆に、英語で話すことに自信がある方には、ホリデー感覚で参加されることをお勧めします。ダニーデンは気候、空気共にとても良い所でした。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
Go global
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年4月7日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: コンサルタント)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input checked="" type="checkbox"/>	7. その他(小説家)		

派遣先大学の概要

オタゴ大学は学術都市ダニーデンの中心地であり、ニュージーランド最古の大学として、重厚的な歴史を垣間見ることができます。スコットランド風建築の時計塔が象徴的存在です。大学の敷地に生徒の住居区があり、生徒と大学間の近接性が見受けられました。講義は生徒参加指向型を心掛けており、常に質問を投げかけ、生徒同士の話しあう時間をつくり、生徒自身に考えさせる、interactiveな要素をふんだんに感受しました。

参加した動機

動機は主に①英語の実力を高めること ②ホームステイを体験したかったこと ③マオリ文化と平和共存を知ることという3点でした。海外で活躍する日本人をコストリカにて垣間見、自分の英語力を鍛えたいと願っていたこと、またホームステイという他人の家族にとけこむ体験をし、コミュニケーション能力を磨きたかったこと、またマオリ文化と平和共存の在り方を知り、昨今の民族対立の解決をどう図るかという指針を得たかったこと、これらが詳細な動機です。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラム費用の支払い、海をまたぐ分、困難でした。①日本の銀行を介する方法 ②クレジットカード情報に向こうに送る方法 この2つを提示され、後者を選択しましたが、ポイントを獲得できるのでおすすめしたいです。事務の人の愛想はよく、悪用の心配はないと思います。

②ビザの申請

日本国籍の場合はビザが要らずスムーズでした。他国籍の場合、手続きが幾分煩雑のようでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

ニュージーランドは伝染病もなく、衛生環境も整っているため、そこまで心配する必要はないと思います。海外保険の全額負担で、医療機関の往診も頼むことができるので、いざというときも心配ありません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は国際交流課の提示したもので事足ります。手続きも簡素です。

<p>⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)</p>
<p>教養学部に関しては、ほとんど手続きは要りませんでした。</p>
<p>⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)</p>
<p>ホームステイ先や教室の雑談等、当然、英語でのコミュニケーションを強いられる分、日常会話の表現を身につけるように心がけました。とくにホストファミリーとの最初の挨拶は肝心なので、どう感謝を述べて、親密な関係を築いていくのか、ネット上で表現を検索し、空で覚え、口にだすことなどをしました。</p>
<p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど</p>
<p>だしつゆ、中濃ソースといった、日本ならではの調味料があると、日本食への欲は減りますし、ホームステイ先に日本食をふるまうことができますと思います。またホームステイ先以外にも、お世話になる現地の人、海外の友人ができるかもしれないので、日本のお土産を何個か余分にもっていくとよいと思います。</p>
<p>学習・研究について</p>
<p>①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)</p>
<p>初日の試験でクラス分けされます。本プログラムの参加者は全員Advancedのクラスに配属されました。1クラス20人弱で、アットホームな空気感がありました。週末なにをしたか等、日常の些事から、写真を見てどう思うか、3つの都市のうちどの都市に住みたいか、という応用的な議論まで、幅広く英語を話す機会を設けてくれました。自分の主張をもつことが大事なのだ、と、つよく感じさせてくれました。予習は各自やる形式でした。毎週小テストがあり、自ずと復習するように設計されていました。クラス同士の会話が早く、クラス仲のよくなる、質の高い講義が多かったように思います。</p>
<p>②学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>自分の表現のストックをいかにたくわえるかが重要のようです。適宜復習して、友達との会話のなかで、新しく覚えた単語を使うと、鮮明に脳に焼きつきます。自分から挑戦の機会をふやすことで、効率的な学びにつながると思います。</p>
<p>③語学面での苦勞・アドバイス等</p>
<p>日常生活の場面で、言いたいことを伝えられないもどかしさに直面しました。「どうすべきか悩んでいる」という表現に非常に苦心した覚えがあります。また同じ表現を多用すると、幼稚な会話にみえる分、いかに多様性にとんだ表現でしゃべるか、という点で、とても苦勞しました。類義語、類似表現を確認しておくのと役に立つと思います。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>現地の家庭に招かれるホームステイでした。ニュージーランド人は非常に親身でした。一緒に楽しもうという姿勢で、自分がなにをしたいのか、ものすごく聞かれました。休日はビーチに連れていってくれる等、毎日の温かみにあふれていました。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>天気は想像を絶するほど変わりやすいです。晴れると暑く、曇ると肌寒いです。羽織るものが一枚あるとよいです。晴れてる時間帯は貴重なので、いけるときにビーチやオタゴ半島に行くことをおすすめします。基本バス社会です。時間通りには来ません。街から遠いと終バスも早いです。食事はサンドイッチとハンバーガーが多めですが、まずくはなく、フィッシュ&チップスの味はかなりよいです。</p>

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は日本並によいです。ただし落とし物には気を付けたほうがよく、日本ほど安易に見つかりません。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費に14万円、プログラム費用(授業料・ホームステイ・食事代こみ)に22万、娯楽費2万、計38万円でした。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学海外奨学派遣事業 14万円でした。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
大学内に体育館があるので、放課後、友達とバドミントンや卓球をしました。週末はホストファミリーに連れられ、無料の植物庭園や、オタゴ半島のビーチにいきました。イエローペンギン、アルバトロス等、ダニーデン固有の生物がおり、野生の生物をみました。また映画館で映画を観ました。家ではニュージーランド式のボードゲームもやりました。ホストファミリーの気遣いは手厚く、筆舌につくしがたいほど多様な体験をすることができました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
スタッフは非常に親身で、話をよく聞いてくれる印象でした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は近現代的なデザインで、蔵書も多く、自習スペースも広々とありました。食堂もキャンパス内に何個か点在しています。またLanguage Centerのそばに体育館があり、スポーツに打ち込むこともできます。Wifiは建物内ならつながる印象でした。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ニュージーランドの国柄は世界的にも最先端のもので、男女平等の思想もさることながら、人の個性を些事のレベルから敬うこと、この点は現代の日本にはない、重要な視点であったと感じました。ニュージーランドという国で英語を学べたことは、英語の経験を育んだ、というより、自分の個性をだすことに関して、ふかく学べたような気がします。それは言語能力より遥かに重要度の高いことだと思っており、個性に自信がもてると、母国語以外で会話することにも、恐怖心や躊躇がなくなり、自分の主張をしっかりと伝えるようになりました。また同時に他学部の学生と友人になれたことで、自分にはない専門分野の話が聞けること、また海外の学生とも友人になり、まったく違う価値観を享受できること等、友人関係の幅が広がりました。ホストファミリーとは今でも仲が良く、来年日本を案内すると決まっており、一生の財産になったと心から感じています。
②参加後の予定
AFPLAの外交分科会のリーダーとなり、東アジア情勢の危機とその解決法を模索しながら、8月中旬ソウルにて、東アジアの学生と議論を交わす機会を与えられています。本プログラムで培った英語力、個性のだし方を十分に発揮したいと考えております。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

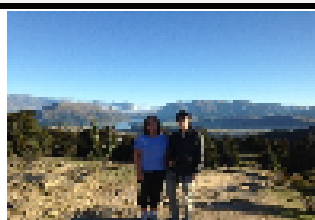
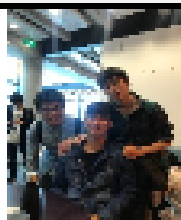
英語にまだ自信の持てない人、少し苦手意識のある人につよくおすすめしたいです。言語能力、発言力がまた一つ上の段階にあがり、英語を話すこと、意見を交わすことに、喜びを見いだせるようになると思います。人柄の温かく、自然のゆたかな、ニュージーランドの生活に包まれながら、自分の成長のきっかけをみつけれられる、質の高いプログラムになっていると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方ニュージーランド編は役立ちました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 4月 6日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	オタゴ大学ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 銀行)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
ニュージーランド最古の大学。大学付属のラングエッジセンターは設備が整っている
参加した動機
もともと大学生のうちに留学しようと考えていた。英語力を伸ばしたいのと、日程の関係でこのプログラムを選んだ
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
ネットなどで情報を集める
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザは必要ありませんでした
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特になし
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
東大側に渡航届けを出し、その後送られてきた保険に加入しました
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特にしなかったが、日常生活で使うものの単語くらいは確認しておけばよかった
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ホームステイ先には日本からお土産を持っていくと喜ばれるし、話の種にもなるのでおすすめです
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前中は一般的な英語を学び、午後はtoeicの勉強をした。毎日何かしらの宿題があったがそこまで大変ではなかった
②学習・研究面でのアドバイス
わからないところは積極的に先生に尋ねるようにしましょう
③語学面での苦勞・アドバイス等
日常生活で使うフレーズになれるのに時間がかかった
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイ
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
湿度が低く過ごしやすい。夜8時くらいまで明るいので時間感覚が狂う
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
貴重品は常に身につけていた
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
45万円ほど。14万円の補助金があったので実質30万円ほど
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大側から紹介があった

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

土日は他の街へ観光にいった

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とてもフレンドリーな人たちだった

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

とても綺麗。スポーツ施設を無料で使えた

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

初めての海外だったが、困難などに直面してもなんとか解決できたので自信になった

②参加後の予定

今年の夏の留学を検討している

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

情報集めは欠かさないようにしましょう

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 16日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:金融)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

オタゴ大学は、ニュージーランドのダニーデンにあり、ニュージーランドで最も古い大学である。今回は、その中の語学学校(Language Centre)で英語を学習した。

参加した動機

私は元から英語を話す練習をしたいと考えていたので、3週間も滞在できるこのプログラムを希望した。その上、ニュージーランドを訪れたことがないので、ホームステイでその国の文化が体験できることも魅力的だった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

費用の支払いや保険の申し込みなど細かい手続きが多いので、早めに準備を始めて、参加者同士で情報交換すると思います。また、チェックリストで何度も確認すると良いです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人はビザが不要でしたが、中国籍などの場合は、ビザが必要でした。ビザ申請にかかる時間は海外渡航経験の違いなどで変わるため、人によってまちまちです。私の場合は1ヶ月前前に申請したが、1ヶ月ほどビザが下りるのに時間がかかりました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校指定の付帯海学と OSSMA(保険に入るかわからないけれども)を申請しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし
ただ、前期教養は海外渡航届を出す必要があったと思います。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特にはないです。ただ留学の申し込みのためには一般的にIELTSかTOEFLにスコアがあったほうがいいです。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日焼け止め

日本的な料理を作るための材料(みりんとかお好み焼き粉とかあると面白いかもしれません。)

向こうは物価が高いので、文房具とかは持参したほうがいいのかもしいです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

基本的には語学学校のカリキュラムに従って学習をしました。

オタゴ大学の授業も聴講できたので、その聴講もしました。

語学学校の方は宿題がかなりの量出されるので、それをこなしていれば十分だったと思います。

聴講では背景知識の有無によって予習・復習の必要性が変わり、予習しないとわからないこともあります。

ただ、今回のプログラムでは学期始めということもあり、どう予習すればいいか指示してくださったのであまり困ることはなかったです。

②学習・研究面でのアドバイス

聴講は面白いのでやってみるべきです。

③語学面での苦勞・アドバイス等

ニュージーランドは訛りが強くて聞き取れないことが多いので、その心の準備をしたほうがいいです。ただ、聞き取りにくさは他国のネイティブスピーカーにとっても同じらしいので、めげずに英語で会話をしたほうがいいです。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学校でホームステイを手配してくれました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:夏でもコートが欲しいくらい寒かったです。ただ私たちの到着前は35度の日もあったみたいです。また天気がころころ変わるので、朝は雨でも、昼から晴れることがあります。

町の様子:都市というよりは町という感じで、バス停で他の人に話しかけたりできる雰囲気です。

交通機関:バスか徒歩です。

お金:クレジットカードは基本使えますが、ある程度の現金は必要です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はとてもいいです。ただ夜に一人で出歩いたことはないです。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃がかなり高くて14万は必要です。
授業料とホームステイ費用はレートによるのですが、20万ほどです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOは14万円のはずです。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は東大からの他の学生と観光することが多かったです。
ジムが無料で使えるので、休み時間や放課後にそれを利用する人も多かったです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポートスタッフがたくさんいるので、サポート体制は充実していたと思います。ただ私は特に問題がなくてあまり利用しませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館が複数あり、大学の中央図書館はとても広くて席も充実しています。
ジムとカフェテリアが語学学校のすぐ隣にあるので利用しやすいです。
PCはあったのですが、語学学校では数が限られていました。また、eduroamのつながりがあまりよくなかったです。ただ、UTokyo Wifiよりは良かったと思います。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

ニュージーランドの文化にはあまり馴染みがなかったので、いろいろな新発見があり、日本と全く違う生活スタイルを体験できてとても良かったです。
異文化を体験して自分の現在の生活を相対化できたことが大きな収穫の一つだと思います。
また、同じ英語圏でも発音が全然違うことがわかった上、他の国の英語学習者と交流することを通じ、英語学習の方向性を考えさせられました。

②参加後の予定

特になし。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ダニーデンはとても居心地が良い町で、東京とは全く異なる空気が流れています。異文化体験をしたい方には是非オススメしたいです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

バスのサイト

<https://www.orc.govt.nz/public-transport/dunedin-buses>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2108年 4月 16日

東京大学での所属学部・研究科等：	経済学部	学年（プログラム開始時）：	学部3
参加プログラム：	オタゴ大学 ウィンタープログラム	派遣先大学：	東京大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界： ）	<input checked="" type="checkbox"/>	6. 起業
	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

オタゴ大学 ランゲージセンターにて語学研修

参加した動機

1ヶ月間の海外でのホームステイ経験を通して、視野を広げたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

余裕を持って準備するべき。奨学金のために成績は取っておくべき。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザの申請はしていないため、特になし。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

特になし。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

学校指定の保険とOSSMAに加入。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

駒場アドミニストレーション棟で書類を提出

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）
IELTSの取得
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
折りたたみ傘（天候変化に備えるべし）
学習・研究について
①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）
学校の少人数形式。会話の練習はかなりできるが、文法や単語等も勉強させられる。宿題はかなり多い。
②学習・研究面でのアドバイス
日本人学生が多いので、積極的に現地の学生に話しかけるべき。友達の輪を広げるべき。
③語学面での苦勞・アドバイス等
日本人学生が多すぎて英語を使えないがあるので、なるべく現地の学生と絡むべき。
生活について
①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
ホームステイ。
②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
バス通学。天候は変わりやすい。食事は口に合うが、パンが中心すぎて米が食べたくなる。クレカを使うと楽で良い。
③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
治安は良い。
④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
約40万程度
⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
JASSOから14万円

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

UNIPOLという体育館があって、毎日運動できる。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

それぞれ相談できる部署があり、サポートも充実している。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

UNIPOLという体育館があって、毎日運動できる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

積極性がかなり増したと思う。自分から英語で話しかける機会が増えたので、自信につながった。海外で働きたいという思いがさらに強まった。就職活動に対する意欲と英語の勉強に対する意欲がかなり高まった。

②参加後の予定

外資・コンサル会社の就職面接に参加予定。TOEIC受験予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加して得られることは必ずあるので、意欲的に参加するべき。英語を話せる機会はなかなかないので、この機会をうまく活用すべき。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input checked="" type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input checked="" type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランド南島のダニーデンという町に所在し、同国内でもトップレベルの大学である。ダニーデンはスコットランド風の街並みが綺麗な学生の都市で、落ち着いた雰囲気ながらも多様な国から集まった学生で町が賑わう。

参加した動機

もともと海外に行くことが好きで、国際系の学生団体に所属したりもしたが、自分の英語力には自信がなかった。特にスピーキングに関して、集中的に色々な人と話す機会を持つことで苦手意識をなくそうとした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際本部から渡される資料をしっかりと読み込んで準備すれば不足することはない。わからない点があったら積極的に職員の人や他の参加者に聞くと良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは必要なかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬・一般的な風邪薬を持って行ったが、それ以外には特に準備しなかった。OSSMAは歯科治療に適用されないので歯医者だけは事前についておいたほうがいいかもしれない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大指定の付帯海学に加入し、OSSMAにも登録した。それ以外のh圏には入らなかった。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

以前から英語力を向上させたいと思っていたので、オンライン英会話をやったり日本にいる留学生と喋ったりしていた。IELTSの勉強も少しずつ進めており、2017年11月時点でバンドスコア6.0だった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

O型プラグ:ないと色々充電できない。
シャンプー等:持って行かなかったのが現地で買ったがやや高い。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラムのメインは、大学付属のランゲージセンターに通って英語を勉強することだった。午前中はGeneral Englishのクラスで、Grammar, Vocabulary, Reading, Listening, Discussionなどの内容を学んだ。基本はテキストに準拠しつつ、日本の高校・大学の授業とは少し違った雰囲気 학생들이楽しめるように工夫されていると感じた。午後はIELTSかTOEICを選択で学ぶクラスで、自分はIELTSのクラスを受講した。こちらは教科書を進めて行くという側面がより強く日本における英語の授業と似ていると感じた。WritingやListeningの演習もあった。東大生のオプションとして、ランゲージセンターでオタゴ大学の教授によるニュージーランドの自然や歴史に関する単発講義を受けられるというものがあった。また、大学で実際に開かれている講義に参加することもでき、自分はマオリ社会に関する講義を聴講した。復習に関しては、宿題がそこそこ出るのでそれをこなしつつ、授業で学んだ表現やボキャブラリーをまとめるなどしていた。予習は言われない限りは特にしなかった。

②学習・研究面でのアドバイス

最低限のことはしっかりやる必要がありますが、それ以上は自身の参加目的と相談しつつ決めるといいでしょう。資格試験等に向けて英語を集中的に勉強したいなら、それができる環境は整っています。他方、スピーキングを練習したいのなら、机の上で勉強するより友達と街をぶらつくほうがいいかもしれません。

③語学面での苦勞・アドバイス等

Advancedという一番上のクラスだったが、授業にレベル自体が高すぎて困るといったことはなかった。授業中は発言を積極的にしたほうがいいが、その点では不十分な部分があった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイ。大学が斡旋してくれる。3週間共に暮らすので頑張って仲良くなるべし。自分のことは自分でやる必要があるし(洗濯など)、料理・皿洗い等の家事手伝いもすべき。他の学生も一緒にホームステイすることがあり、自分の場合は途中から中国と台湾から学生が来た。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

天気は良くない日が多く、夏にも関わらず寒いくらいだった。長袖は複数枚必須。逆に晴れると日差しが強いで暑くなる。大学まではバスを使った。Go cardというICカードを利用すると安いですが、それでも片道2ドル強だったので出費がかさむ。食事は基本、三色ともホストファミリーが作ってくれた。買い物はクレジットカードメインで行ったが、Go cardへの入金など現金が必要となる場面もあるので両替は必須。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
プログラム参加前にニュージーランド国内を旅行したが、それも含めて治安面では危険を感じなかった。特に気を使っていたわけではないが体調を崩すこともなかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
40万程度
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
国際本部からの情報に従って、JASSOなどから14万円奨学金をもらった。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
放課後・週末は友達と市内を観光したり、大学付属のUNIPOLという施設でスポーツをしたりした。また、クイーンズタウンかミルフォードサウンドの選択でエクスカージョンに参加することもできた。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
プログラム開始前に大学からオリエンテーションがある。わからないことは聞けば対応してくれるし、最悪日本人スタッフもいるので、その人に聞けば問題ないだろう。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
建物は全体的に綺麗で、WIFI完備。図書館、スポーツ施設、食堂等もランゲージセンターからアクセスしやすい距離にあり、特に不満に感じた点はなかった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
主目的である英語(特にスピーキング)の学習環境としては、東大生を含め日本人が多い点が良くなかった。留学に来た意味を高めるなら、他の国から来た学生と積極的に話したり、日本人学生とも英語でコミュニケーションを取る必要がある。3週間メインの言語が英語であったという経験は貴重で、実際の英語力の伸びは大きいかもかもしれないが、それ以上に英語を話すことに関して自信を持てるようになった。また、東大生が多いというのも、先輩等から色々な話が聞けて、一概に悪い点ではなかった。
②参加後の予定
IELTSのスコアを基準に今後とも英語の勉強を続けていきたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

単純な英語力の伸びだけで言えば、自費でもっと日本人の少ない語学学校に通った方が少し伸び幅は大きいかもしれない。しかし、僕はその違いはあまり重要ではないだろうと考えているし、僕にとってこのプログラムは自信をつけるには十分すぎた。大学の講義を受けたり、他の東大生と喋ったり、単純な語学留学に止まらない経験ができるので、是非とも参加を検討してほしい！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

オタゴ大学のホームページ: どのような講義が開かれているか見ることができる。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年 4月 11日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	国際本部ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

オタゴ大学はダニーデン市に位置する総合大学です。ちなみに私が参加したのは、このオタゴ大学の語学学校です。アジアを中心に世界各国から英語を学びたい人が集まっています。

参加した動機

まず、英語力の向上が挙げられます。このプログラムは語学学校で英語を学ぶことを主目的にしていました。さらに海外の生活を体験したいということもありました。これまで海外に出たことがほとんどなかったため、ホームステイが組み込まれている本プログラムは非常に魅力的でした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

大学からの指示に沿って書類等を提出していけば大丈夫です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大のOSSMAに加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

短期プログラムだったため特にありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

語学力を鍛えるために出願を決意したので、英語は苦手でした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

向こうは夏でも寒いので、上着等を持っていくといいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

語学学校での授業は主にスピーキングベースでした。午前はgeneral Englishといってテキストを使って4技能の学習をします。午後はIELTSかTOEICを選んで試験対策の講義を受けました。共に初日のテストによってクラス分けがなされます。知っている限り東大生は全員一番上のクラスでした。宿題はリーディングとリスニングがたまたに課されます。日本以外から来た学生は単語の知識などを自分たちの方が勝るものの積極性や流暢さは完全に負けていました。クラスの雰囲気は良く、アジア、中東、ヨーロッパなど様々なバックグラウンドを持った人達と交流できました。

②学習・研究面でのアドバイス

語学学校での勉強も重要ですが、何より外国人と友達になる。ホストファミリーと喋る等が英語力を上げるために一番大事です。日本の学生が多いため積極的に喋りかけてみましょう。海外の学生はフレンドリーです。

③語学面での苦勞・アドバイス等

ニュージーランド訛りに苦勞しました。特にローカルな人の話している内容はほとんど聞き取れず焦りました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイ。学校側が用意してくれます。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ダニーデン自体はそこまで都会ではありません。しかし、大学からすぐのダウンタウンへ行くとショッピングができたり、日本食も食べられます。バスが主な交通手段となります。向こうは夏でも寒いです。(Max20度程度)

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常に良く感じました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費: 20万弱
プログラム費用: 20万程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学からの奨学金に応募しました。14万ほど頂きました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は旅行に行きました。NZは自然を生かした観光地がたくさんあります。また、語学学校の隣に大きなスタジアムがあります。そこではスーパーラグビーというサッカーでいうプレミアリーグのような最高峰のリーグ戦が行われています。オタゴ大学の学生も多く集まり非常に盛り上がるのでぜひ行ってみてください。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

非常に整っていると思います。日本人スタッフもいるので困ったらなんでも相談するといいでしょ。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

語学学校の生徒も大学の設備を使用できます。大学自体非常に広く設備はかなり整っています。特にジムは無料で利用できます。わたしは毎日のように通いました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

やはり一ヶ月という短い期間で英語力を格段に向上させるのは困難に感じましたが、1年という比較的早い時期に参加したことで今後のモチベーションにも繋がったと思います。特に海外の学生やホストマザーと話すことで、英語を使うことに対する抵抗感が薄れたように感じます。また海外の学生の積極性には驚かされました。文化の違いがあるにしろ非常に見習うべき点であると思います。

②参加後の予定

3年次からの長期留学を考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

奨学金も支給されるので、迷っている人はとりあえずチャレンジしてみるといいと思います。特に海外で滞在経験が無い人はいい経験になることは間違いありません。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 20日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランド南島のダニーデンに位置するオタゴ大学の語学学校への派遣でした。

参加した動機

英語力向上のため。英語圏で、文化とともに言語を学ぶ体験をしたいと思い、参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

web上での書類の提出、保険手続き、料金支払い、航空券入手といった手続きがあります。航空券は早めに取りを勧めます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍の学生はビザは不要でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で義務付けられている、付帯海学・osmaに加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
留学や海外経験は無く、スピーキングは得意ではありませんでした。ホームステイの英会話のための本で少し勉強しました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
帽子、サングラス、日焼け止めなど、日差し対策が必要です。授業のために電子辞書を持つと便利です。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
授業は10時から4時で、テキストを使って、生徒同士のスピーキングを中心に進みます。語彙や文法の課題も出ますが、難易度はあまり高くないです。ieltsもしくはtoieicの対策の授業もあります。
②学習・研究面でのアドバイス
英語で話すのがあまり得意ではない人向けなので、授業は厳しくはないです。そのため、語学を上げるためには、休み時間などを使って自習したり友達と英語で話したりすることをお勧めします。
③語学面での苦勞・アドバイス等
ニュージーランド英語はとても聞き取りにくいです。語学学校の先生はゆっくりしゃべってくれますが、ホストファミリーとの会話は聞き取るだけで一苦勞でした。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイを国際交流課でセッティングして頂きました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
夏といっても寒い日は最高気温10度になりました。ニットやヒートテックは必要だと思います。大学から20分ほど歩くと街に行け、買い物や食事ができます。バスか徒歩での移動ですが、片道2ドルほどのバス代のために現金の用意があるといいです。自販機でもクレジットカードが使えるくらいなので、カードでの支払いが中心になると思います。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はかなりいいと感じました。リュックで街を歩いている日本人が多かったですが、スリに遭ったというのはいきませんでした。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券14万円(ちょうど奨学金で払える額でした)、プログラム料金20万円、交通費・週末の旅行などの娯楽費10万円弱だと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学を通して、JASSOから14万円いただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は、自主的な旅行と、語学学校のエクスカージョンに行きました。語学学校の授業の他、オタゴ大学の実際の講義の聴講も非常に興味深かったです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

オリエンテーションで詳細な説明があり、留学生たちの不安が無いように取り図られていたと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館や、ランニングマシンなど使えるジム、カフェテリアなどが充実していました。Wi-Fiも問題なく繋がります。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今まで英語を話す機会がなかった学生にとっては、とても良い機会だと思います。一か月間英語に触れることで、英会話への苦手意識が無くなりました。また、滞在中の旅行でニュージーランドの自然に触れることができたのも大きな収穫でした。

②参加後の予定

TOIECなどの資格を取得するために勉強する予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

英語に自信の無い方に、参加をおすすめします。他の大学や国籍の友達ができることは大きな経験ですし、料金も格安だと思います。ぜひ参加して今後に役立ててください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月10日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	オタゴ大学ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
ダニーデンに位置する、ニュージーランド最古の大学
参加した動機
経済的な理由から留学を悩んでいたが、奨学金が14万円もらえると聞いたため
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
書類の数がかなり多いのでそれぞれの締め切りを意識して早めに行動する必要がある
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
不要だった
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特になし
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
大学指定の付帯海学
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

動画サイトなどで簡単な英会話などを学習した

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

夏でも意外と寒いことが多いので上着が必要。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前は教養英語、午後はIELTS/TOEICの対策。宿題は適度な分量。IELTS/TOEIC対策はあまり直接的には役に立たない。教養英語は先生によるだろうがSpeakingの練習が多くためになった。

②学習・研究面でのアドバイス

分からなければ先生に質問すれば快く応じてくれる。

③語学面での苦勞・アドバイス等

ニュージーランド人特有の発音に慣れるのに苦勞した。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学指定のホームステイ。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学は市の中心付近にあるが、そこまで発展しているわけではない。多くの人がバスで大学まで通っており、交通費がかなり必要になる。全体的に物価が高い。現金は大学の近くに両替店があり、利用できる。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は全体的に良い。日没が遅いのも安心できる。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

45万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学、JASSO(大学からの紹介)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

放課後は付属の施設で運動ができる。週末は大学が旅行を企画してくれるが参加費がかなり高く、個人的に行ったほうが良い場合もある。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

全体的にサポート制度は整っていた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

スポーツ施設や図書館など無料で使用できる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外経験と語学力向上を目的として参加した。前者に関しては現地で様々な体験を積めたため、概ね達成できたと思う。後者に関しては授業や外国人との会話等を通じてある程度達成できたが、生徒の日本人率がかなり高く、また日本の他大学の学生のレベルも正直あまり高くなく、その点は期待外れだった。クラス全員が日本人の授業もあり、英語以外禁止にも関わらず日本語が飛び交っており、本当に英語漬けの環境を欲している人には不向きだと感じた。

②参加後の予定

通常通り進級し学部卒業後就職

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

いわゆる「留学」を考えて参加すると、少し違うという感じになってしまうと思います。自分の経験的にはニュージーランドの生活を体験しつつ英語の授業を受けるという認識が正しいのではないかと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

DMM英会話

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランド南島のダニーデンにある大学。Otago language centerでは大学入学やキャリアステップのための英語教育をしており、アジアやヨーロッパ、南米からの留学生と一緒に学んでいる。

参加した動機

交換留学への参加を予定しており、海外に一定期間滞在し学ぶ経験を積むため。大学のプログラム内で最も長い期間で実施するもので、かつホームステイを行うものだったため、海外の生活環境に慣れるのに適していると考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

支払いの際に手間取った人もいたようだが、東大とオタゴ大の指示にしたがっていけば特に問題ない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは申請していない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に行っていないが、かぜ等の常備薬を持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定の留学保険(東京海上日動の留学保険)に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関して)

渡航期間中に成績発表があることの説明を受けた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
出発前はIELTS6.5。ホームステイに備えて、生活に関わる表現を少し勉強した。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
紫外線が強いため、日焼け止め・帽子・サングラスなどがあるとよい。 手紙を書きたい人は便せんがあるとよい(現地では売っていない)。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
平日は10:00-13:00がGeneral Englishのクラス、14:00-16:00がIELTSのクラス。 GEは18人程度のクラスで、ディスカッションを多く行う。IELTSは試験の4技能に対してそれぞれ練習をする。 宿題は週末にリーディングなどが出るがそれほど多くない。 金曜日には合同授業で、ショートムービーの作成などを行い、クラスの違う生徒とも交流する。
②学習・研究面でのアドバイス
ILCという教室には、PC・DVD・本・ボードゲーム・語学試験の教材など、様々なマテリアルが揃っているので活用するとよい。
③語学面での苦勞・アドバイス等
ニュージーランド英語は独特のなまりやスラングがあり、初めは聞き取りに苦勞した。また、家庭での家族の会話について行くのは難しいので、ネイティブのスピードで、ニュージーランドやオーストラリアの英語を聞くことに慣れていくとよい。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイ 事前のアンケートをもとに、オタゴ大学がステイ先を選定する。 私のステイ先は両親と11歳・14歳の兄弟がいる家庭だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
天候は変化しやすく、1日の中でも10度以上気温が変わったり雨から快晴になったりする。 バスが主な交通手段。スーパーやレストラン含め、ほとんどの場所でクレジットカードを使用できる。 大学から20分ほど歩いたところにコンパクトな中心市街がある。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
医療費が高額なため、体調管理には気を付けた方がよい。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃14万、プログラム代22万(授業料・教科書代・家賃・食費)、交通費1万、娯楽費約3万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
大学指定のJASSO奨学金14万
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
大学の施設でスポーツができ、無料の体験コースに参加することもできる。 大学が週末にクイーンズタウン・ミルフォードサウンドへのエクスカージョンを実施していたが、私は参加せず市街を観光したり、オタゴ半島のツアーに申し込んで参加したり、ファミリーの予定に同行したりした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
スタッフや先生は優しく、海外学生に慣れているので、何かあれば相談しやすい体制が整っている。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
ILCという教室でPC・DVD・本・ボードゲーム・語学試験の教材などが使用できる。 大学の中央図書館はニュージーランドとオーストラリアで最大の図書館。 大学のカフェテリアが近くにあるほか、ステイ先から持参したランチを温めるレンジが学校内にある。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
何があっても英語でやり切る力がついた。ステイ先では色々な相談をファミリーに英語でしたり、日本について説明したりしたので、つたない言葉でも英語で最後まで伝えることができると感じた。また学校では様々な国の出身者と交流して、英語での交流の楽しさを改めて感じて学習のモチベーションとなった。 生活では、日本とニュージーランドの暮らし方の違いや女性の立場の違いを強く感じ、ホームステイの意義を感じた。
②参加後の予定
交換留学に向けて準備をする。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
大学の補助を受けてホームステイや長期滞在ができる機会は貴重なので、参加を迷っている際はぜひ参加してほしい。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
Otago Language Centerの HP、DunedinのHP
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018/4/13

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 編集、出版)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

大学と、語学学校に分かれていた。このプログラムでは語学学校に通い、希望すると大学の講義も聴講できた。

参加した動機

留学経験がなく、英語に自信がなかったため、海外に長期滞在し英語を日常的に使う生活を経験してみたかったから。また、このプログラムは短期間だがこのプログラムをきっかけに英語に少しでも自信を持ち今後の英語学習のモチベーションに繋げようと思ったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人は短期ではビザは必要なかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特別な準備は必要なかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSMAと全員が加入する海外渡航保険

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語のアニメーションを見て、ネイティブの会話に慣れる耳の準備をした。また、留学経験のある友達に日常会話では頻りに使うが日本の教科書には載っていない言い回しを1ヶ月間教えてもらい練習した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ホストファミリーへのお土産、パスポートのコピー

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

クラスによって宿題の量が異なったが、私のクラスは比較的少なかったため、自主的にその日の授業で出てきた言い回しをメモして、音読し練習した。単語、文法というよりは会話を声に出して練習することに重きを置いた。また、大学で毎日DVDを借り毎日映画を字幕付きで観た。わからない言い回しはその都度メモし繰り返し練習して口に覚えさせた。

②学習・研究面でのアドバイス

単語や文法の授業もあるが、せっかく海外に滞在しているので会話中心に勉強した方が恵まれたこの環境を活かすことができると思う。学校だけでなくホストファミリーとのたわいない会話も十分に日常会話の英語力向上に繋がるので大切にしたい。

③語学面での苦労・アドバイス等

ニュージーランド英語は訛りが人によっては大きく、ホストファミリーの英語は特に聞き取りにくかった。文字に起こすと簡単な英文でもわからないことがあった。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など

ダニーデンの郊外にホームステイ。自室は十分すぎるほど広かった。食事も全て提供してもらった。朝昼は冷蔵庫の中にあるものを自分で使ったり持って行ったりするスタイルであった。中国人の院生と同居。2年間留学しており町のことをいろいろ親切に教えてくれた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏とはいえ日本の春や秋の初めのような少し肌寒い気候。半袖では寒い。夜は暖房をつけないととても寒かった。主な交通機関はバスだが時間通りにこないことも多々あった(郊外だったため。)食事は日本料理店やなじみのファーストフード店もあった上、アジアマーケットでは日本のお菓子屋インスタントラーメンが購入可能だった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はとても良い。空港でパスポートを落として死を悟ったが無事に見つかった。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

必須なのは航空券代のみ。娯楽は週末にエクスカージョンがありそれに3万円程度で参加した。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
14万円程度
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
ホストファミリーと映画に出かけたり、海に行った。また一人で町を散策し図書館で映画を観たり、本を読んだりした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
全ての面において大変優れていて感動した。私は上述の通りパスポートをなくし精神的に参っていた時期があったが、大学の先生をはじめ、日本人スタッフの方、また学生担当の方のあたたかいお言葉でどれだけ救われたかは計り知れない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
無料のジム、スポーツのできる体育館、広大な図書館など大学設備は非常に充実していた。留学生向けのDVD、書籍、漫画、ゲームの貸し出しもあり、大変恵まれた環境だった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
何よりも大きな意義は、英語に自信を持つことができた点である。英語に自信を持つことは自分に自信を持つことにもつながった。1ヶ月は短く何かを完璧に達成しようとするには足りないが、英語学習の足がかり、英語話者とも友達になれるのだ、自分の英語はある程度通じるのだという自信は日本では得難いものではないだろうか。このプログラムは英語に苦手意識を持っている人に是非オススメしたいプログラムであった。
②参加後の予定
大学院入試を受けるため、TOEFLの勉強をする。TOEFLはリスニングとスピーキングの割合が大きいので、この留学で得たモチベーションは大きく役にたつことだろう。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
上述の通り、英語に苦手意識を持っていたり、留学に不安を持っている学生にこそこのプログラムをおすすめしたい。派遣先の大学は非常に整った設備と、手厚いフォローが十分にある。奨学金も出るため、東京大学に属してこのプログラムを利用しない手はない。自分に自信をつける大きなチャンスであることは間違いない。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
ニュージーランド『地球の歩き方』
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	2017年度国際本部ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:未定)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランド国内では最古の大学であり、ダニーデンという町はオタゴ大学を中心として造られているいわば学生街である。世界的に有名な大学でこそないが、世界各地から様々な国籍の学生が留学に訪れる。語学留学生や英語が母国語ではないオタゴ大学入学希望学生のための語学学校が附属しており、今回のプログラムではそちらに所属した。

参加した動機

大学の英語授業や自学ではやはり語学力を伸ばすことには限界があると感じ、また新しい環境に一人で飛び込む機会を求めていたところ、このプログラムを知った。本プログラムには他の地域への留学もあったが、ホームステイの形式はここのみであったため、興味を惹かれた。寮生活ではなくホームステイをすることで、日本学生との日本語での会話に終始することがないようにしたかったのが本音であった。またニュージーランドは自然が豊かでどことなく日本に似た国であると聞いていたことも大きかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

例年オセアニアへの留学はそこまで人数が集中しないが、今年は特別多かったようで書類選考があった。語学への興味・意欲を偽りなくアピールできると良いと思う。留学にあたって提出しなければならないファイル・書類は非常に多いので、忘れないようリマインダー等にメモしておいて提出物を自分で把握すると思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ニュージーランドへの短期留学はビザが必要ないので、その点は心配いらなかった。他の地域に留学する場合はパスポートと共に注意が必要。パスポート類は早めに取得すべき。自分は影響を受けなかったものの、本プログラムのように準備が年末年始になったりすると公共施設が混む場合もあるのでとにかく早めに。自分が初海外だったこともあるが、パスポート等がどこで取得できるか、いくらかかるかなど自分で調べるのが意外と大変だった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に伝えられなかったので何も行わなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学が準備してくださった保険にそのまま乗っかる形だったので特に苦労はしなかった。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になかった。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
外国語検定は英検程度しか持っていなかったため参考書を買ったりもしたが、あまり時間を作れなかった。映画を見たりするのが効率的だと聞いた。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ホームステイの場合の注意点について述べるが、服は洗濯してくれるとはいえ不足がちになるのでカバンの容量と相談しつつ多めに。日用品は意外にも近くのスーパーなどで大体揃えられたので、どちらかというと娯楽用品の方が異国の地でのストレスを最大限解消するために有用だった。あと飛行機や、個人旅行をする際の移動手段は暇になるので安眠アイテムや暇つぶしのもも必要。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
所定のテキストこそあったものの、テキストの中身自体議論させるようなトピックばかりで授業は必然的にディスカッションや会話が主だった内容であった。スピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの学習が一週間のうちにバランスよく配置されていて、英語力を偏りなく上げることができた。単語テストは毎週実施されたが、自分の経験してきた日本のものより実践的で面白く、印象に残っている。
②学習・研究面でのアドバイス
授業で用いられる英語自体はそこまで難しくないが、自分から表現しようと思う以上口から出てこないものなので、予習はそこまで必要ないと思う。むしろ授業中の発言が大事。復習も、テキストを読み返したりするよりはその日その日で何を扱ったか、何を話したかを思い出してホストファミリーや友達との会話や次の日以降の授業で実践することの方が効果があると感じる。
③語学面での苦勞・アドバイス等
日本人は単語や文法といった知識こそ豊富だが、実際に喋るのは苦手で他国籍の学生に圧倒されることもあると思う。だがそこで怖気づかずに話そうとすれば自然と慣れてくる。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイ。大学がホームステイ先を探して割り振ってくださるので、ホームステイ先への希望があれば希望を伝えればあとは何もなくても住環境を整えてくれた。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
ダニーデンは南極に近く、朝夜は寒かったが日差しはやはり強かった。交通機関はバスこそあったが日本ほど交通の便はよくなく自分のホストファミリーの家までは結局徒歩で帰宅していた。食事はしつこくなく日本人でも普通に食べられる味付け。お金は短期の場合そこまで心配いらなと思うが長期の場合計画的に使った方がよい。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)

夜で歩くのは極力避けた方がよい。学生街であったため週末など特に飲酒した学生が多かった。保険に入っていれば普通の診療はそこまで高くないが歯医者が高額。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

食費、交通費はホストファミリーのおかげでプログラム費ですべてカバーされていた。航空賃は一般的な機体ならそこまで差はない。娯楽費は週末の計画など人によってかなり差が出てくると感じた。合計で35万円程度であった。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学が準備してくださったJASSOの奨学金にそのまま乗った。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ジムやコートが語学学校に付属しており、週2, 3回利用して運動習慣を続けた。週末は友人と市内観光、また少し離れた場所まで電車旅やワイルドライフトゥアーに行った。プログラム後には個人的な旅行として国内の観光地をめぐった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

大学のスタッフが常駐しており、担当も複数名に分担されていたため誰に何を質問したらよいか明確で助かった。ホームステイで問題が生じた場合も親身に相談に乗ってくれると聞いた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

コンピュータールームが語学学校にあり、DVD・書籍・ボードゲームなども置いてあって手軽な英語学習も行えた。ジム・コートは広さ設備共に充分であったが他の地域からの学生はあまり使用していなかったのが勿体ないと感じた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

全く新しい環境でもチャレンジすることで人の輪も広がりできることがたくさんあると学んだ。逆に色々なことに挑戦しないとその環境下でも良さを生かせないことを認識した。英語のお勉強だけをしていてもダメで、実際使われている英語はそれと大きく異なるもので正確さよりは自然さが求められると知った。

②参加後の予定

まずは自分の進路についてもう一度ゆっくり考え、それでもどの進路に進むにせよ最低一回はもっと長い期間の留学をしてみたいと思っている。今度は専門科目も海外で勉強してみたいと感じているからである。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

まずは応募しなければ留学に行けることは100%ないので、応募しよう！もし留学が叶って、それがどんな経験になるにせよ、あなたにとって大切な機会になることは間違いないです。学生のうちが留学できる絶好のチャンスなので、ぜひ勇気をもって未知の世界へ飛び込んでみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

・地球の歩き方(個人旅行用)・「海外旅行 必需品」検索エンジンで

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2017年 4月 19日

東京大学での所属学部・研究科等：	理学部	学年（プログラム開始時）：	学部2
参加プログラム：	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学：	オタゴ大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職（医師・法曹・会計士）
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業（業界： ）	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

オタゴ大学は、ダニーデンという町にある、ニュージーランドで最も古い大学である。東大よりも敷地はかなり広く、学生寮、博物館、ジム、カフェテリア、講義棟、図書館などたくさんの建物があつた。大学の中には川も流れていて、近所の人たちの憩いの場になっていた。私たちが通つたのは、大学に併設されているLanguageCenterという言語学校で、生徒は世界各国から英語を学ぶために集まっていた。Language Centerの後、さらにFoundationYearというところでより発展的な英語を学ぶとオタゴ大学への入学資格が得られ、それを目指している生徒もいた。

参加した動機

私は、将来、研究者になりたいと思つており、その上で、海外の研究者とも協力し、一緒に未来を切り開いていきたい。そのための一歩として、このプログラムに参加し、語学力や、異文化への理解の向上を目指したいと思つた。また、他者と出会い、話すことは、とても自分の糧になると思う。私はとても視野の狭いちっぽけな人間で、すぐ自分のことだけでいっぱいになってしまうが、他の人と話すことで、自分の小ささに気づくことができる。このプログラムに参加し、生まれた国も育つた環境も違う人と話し、その人たちがどんな暮らしをしていて、どんなことを考えているのか、知りたかつた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあつたのアドバイスなど）

参加申請書の動機はしっかり考えて書いたほうがいいと思う。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあつたのアドバイスなど）

日本国民の場合、ニュージーランドへの入国の際、滞在が3ヶ月以内ならビザは必要ない。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

常備薬は持つて行つた。バスをよく使うので、バスに酔う人は、酔い止めもあるといいと思う。予防接種や健康診断はしなかつた。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

オリエンテーションで大学から案内のあった、「公益財団法人 日本国際教育支援協会」の「学研災付帯 海外留学保険」に加入した。また、前期教養課程生は加入必須とのことだったので、日本エマージェンシーアシスタンス(株)の派遣留学生危機管理サービス OSSMA(Overseas Student Safety Management Assistance)にも加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

今回のプログラムは春季休業中だったため、特に手続きはなかった。ただ、Aセメスターの成績発表は滞在期間中だったため、忘れずに確認することは必要。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

春休みに短期留学をしたいと考えていたため、TOEFLの点数があったほうがいいと思い、少し勉強して、TOEFLiBTで74点を持っていた。2年生では、学校ではほとんど英語の授業がなかったが、レアジョブ英会話というオンライン英会話レッスンを週3回ほど受けていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

出発前に、行く国の歴史・地理・経済・政治などについて調べておくべきだと思った。知識があるのとないのでは、同じ風景を眺めていても、見えるものが違ってくると思う。また、ホストファミリーとの話題にもなる。今回は、オタゴ大学の先生にニュージーランドの歴史・自然・外交についてレクチャーしていただいたが、そこで聞いたことや私の感想、疑問についてホストファミリーと話すのがとても面白かった。事前に日本で勉強していたら、もっと見えるものがあつたらうと思った。また、ホームステイさせて頂く家族のためのお土産を持っていくといいと思う。日本のスナック菓子を現地の子と一緒に食べるのも楽しかった。折り紙を持って行って、ホストシスターの女の子と一緒に折り紙ができたのは嬉しかった。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

基本的に、平日は語学学校で英語の授業を受け、その後ホームステイ先に帰ってホストファミリーと話したり、宿題をしたりしていた。授業のない週末には観光などを楽しんだ。

午前中は、General Englishと言って、教科書のトピックに沿った文章を読み、スピーチを聞き、ディスカッションをしたり、時には文法や語彙の勉強など、英語力全般を鍛える授業だった。クラスは固定されており、クラスメイトや先生と仲良くなることができた。午後は、IELTSまたはTOEICに特化した授業を、各々がどちらかを選択して受けていた。私はIELTSを選び、IELTSの問題を解き、クラスメイトと答え合わせや相談をした。また、英語の記事や本を読んだり、教科書の問題を解いたりといった宿題も出て、私にとってはそこそこハードだった。金曜日には、ポキャブラリーや文法、スピーキングのテストもあった。

自分の人生の中では、今までになく長時間英語に触れることができたが、そのなかで感じたことは、自分の英語の出来なさだった。教科書に出てくる文章は全くスラスラ読めず、リスニングの音声も、スリランカ人の男の子が英語で話しかけてくれる内容も全然理解できなかった。英語の上達のためには、ひたすら英語を読むこと、英語を聞くこと、話すことが何よりも大事だと気付いた。そうすることで、英語に対する耐性ができ、少しずつ英語を早く処理できるようになるのではないかと思った。1ヶ月と言う期間の短さもあり、あまり上達は感じられなかったが、自分は英語ができないということ、道具としての英語というものを実感できただけでもよかった。また、英語で英語を学ぶというのも私にとっては新鮮だった。当たり前だが、英語の授業なのに授業は英語で行われ、英語で英語の文法を学ぶので、時によってはそもそも授業で今何をやっているのかわからないこともあったが、いい経験になった。

オタゴ大学の先生方がしてくださった、ニュージーランドについての講義はとても勉強になった。ニュージーランドはとても新しい国で、最初イギリス人が入植し、さらに、ゴールドラッシュ、第一次・第二次世界大戦による人の出入りも多くあったという。実際、私のホストファザーの両親はヨーロッパ出身で、ニュージーランドという国は流動的で、新しいということを実感した。日本列島には、もともと日本民族が住んでいて、基本的には今も日本人が住んでいるが、戦争中には朝鮮人や中国人が連れて来られたし、戦後やってきたアメリカ人は大きく日本を動かしたことを考えれば、私が思っているよりも世界はつながっているのかもしれない。

②学習・研究面でのアドバイス

授業をしっかり聞き、集中力を持って、授業中のディスカッションに積極的に参加することが、何よりもいい英語の練習になると思う。授業や宿題、観光など、色々なものが飛び込んでくるが、その1つ1つに目的意識を持って、吸収できるものは全部吸収するという気持ちで取り組めるといいと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

クラスメイトと話したいことがたくさんあるのに、英語ができないために、相手の言っていることが理解できなかったり、伝えたいことが伝わらなかったりして、歯がゆい思いをした。相手の言っていることがわからなかったら、適当に話を合わせるのではなく、きちんと聞き返すべきだと思う。ただ、日本の学校の春休み中だったこともあり、語学学校は日本人ばかりだったので、悪い意味でもあまり苦勞はなかった。積極的に他国出身のクラスメイトに話しかけるべきである。

生活について

①宿泊先（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

大学がホームステイ先を用意してくれた。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

ニュージーランドの天気はとても変わりやすく、1日の中での温度差も大きいので、天気予報をしっかりと確認するのがおすすめ。行ったのは夏だったがあまり暑くはなかった。紫外線が強いので、日焼け止めを塗り、帽子を被ろう。サングラスも持っていくといいと思う。ニュージーランド人は結構サングラスをかけており、サングラスをかけるとニュージーランド人の気分になれる。

交通機関は、バスを使うことが多い。バスの頻度は、日中は30分に1本くらい。バスにはたくさん種類がある。バスの運転手さんは愛想がいい人が多く、会話が楽しかった。

食事は、朝・晩はホームステイ先の家で、昼はホームステイ先から持参した弁当を食べていた。朝はシリアルかトーストで、各自自分の出かける時間に合わせて起きてきて、別々に食べる。夕飯は家族で食べることが多く、手の込んだ手料理をご馳走してくれた。肉と、野菜と、茹でたポテト、というパターンが多い。ホストブラザーが日本好きで日本にも来たことがあり、一度カツ丼を作ってくれて感動した。昼は、ランチボックスに、フルーツ（りんご、プラム、バナナ、洋梨など）やチョコレートバー、サンドイッチを入れて持って行った。ニュージーランドの果物は全体的にサイズが小さく、皮をむかずに丸ごと食べる。

行く機会はなかったが、街にはかなり多くの日本食レストランがあった。美味しいアイスクリーム屋、パンケーキ屋、シーフードレストランもあり、おすすめ。

クレジットカードは多くの店で使えるが、使えない店もある。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は基本的にいい。水道水も飲める。医療機関は、使わなかったのでわからない。紫外線が強いので、日焼け止めは塗ったほうが良い。ホームステイ先では、部屋に一人でいると気持ちが塞いでくるし、ホストファミリーとの距離も開いてしまう気がしたので、宿題などもできるだけリビングでするようにした。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

飛行機は、航空会社がニュージーランド航空以外ほぼなく、往復で14万円くらいかかった。

娯楽費については、お土産代・食費合わせて5万円くらい使ったと思う。それとは別に、語学学校主催の旅行では、370NZD（約3万円）かかった。

プログラムの費用は、授業料とホームステイのお金が合わせて2603ドルだが、奨学金を14万円いただいたため、正味約8万円だった。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSOの奨学金（大学から紹介されたもの）

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

週末は、ホストファミリーに車でドライブに連れて行ってもらった。美しいダムや、家族で所有していて、クリスマス休暇には毎年遊びに来るというキャンプ場、海水浴場など、ホストファミリーも家族でよく行くらしい観光地に連れて行ってもらった。また、一緒に行った東大生の子との、ダニーデンの町歩きもとても楽しかった。特に、毎週土曜朝ダニーデンの駅の前で開かれる「ファーマーズマーケット」は、地元の人々で賑わっていて、様々な種類の果物（ネクタリン、桃、梨、りんご、あんず、ブラックベリー、ポイソンベリー、ラズベリーなど）や、肉、野菜、植物の苗、チーズ、こんぶ茶など、美味しいものがたくさん売られていて、試食もできて、楽しかった。こんぶ茶は、日本のこんぶ茶とは全く違って、ブルーベリー味、りんご味などがあって、ジュースのように甘かったが、すっきりした味で美味しかった。また、Otago Settlers Museumはとてもよかった。日本でも、外から人が入ってきたりして、国内の様子が大きく変わることはあるが、やはりニュージーランドは、イギリスから移り住んできた人たちの国という側面が強く、その歴史を知ることは新鮮だった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

語学学校には、日本人のスタッフが一人いっしょり、安心感があった。相談所もある。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

英語の映画や本、辞書、PCが沢山ある部屋があり、放課後はそこで勉強できるが、17:00までしか空いていない。無料で使えるジムや、バドミントンなどができる体育館もある。カフェテリアもある。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自分としては、ホストファミリーや語学学校の友達と話せたことが一番印象深い。もっと英語力があつたらもっと仲良くなれたのに、という思いはあるが、それでも、海外の友達ができただけは初めてと書いていくくらいだったので、嬉しかった。授業もそこそこ内容が濃く、宿題もあり、ホストファミリーとも話したくて、やりたいことはたくさんあり、その1つ1つをさぼらず、エネルギーに行動しようとするのができたのは良かった。ニュージーランドの人は朝7時くらいに起きて、夜10時くらいには寝るし、高校でも9時から3時までしかないし、店も5時には閉まるしで、本当に時間のゆっくり流れる国だった。空気感が日本とは全然違っていて、面白かった。また、私のホストファミリーは、家族みんなウォータースキー好きで、1回ホストブラザーの試合に連れて行ってもらい、1回ウォータースキーをやらせてもらった。日本にも、キャンプが好きな家族、釣りが好きな家族、スキーが好きな家族、名所巡りが好きな家族など、いろいろあるし、そういうところはあまり変わらないものだなあと思った。

②参加後の予定

理学部地球惑星物理学科で物理・プログラミングを勉強する予定。研究職につきたいので、英語の論文が読める・書けるように、英語の勉強も続けていきたい。

ニュージーランドは、火山も多く、地質学的に興味深い土地であるため、もう一度行ってみたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ニュージーランドは、人がとても優しく、時間のゆっくり流れる本当にいい国です。ぜひ一度行って見て、その空気を吸ってみてください！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ニュージーランドを知るための63章（明石書店）

New Zealand History (<https://nzhistory.govt.nz>)

Artwords - DUNEDIN STREET ART (<http://dunedinstreetart.co.nz/artworks/> / ダニーデンの街のあちこちにある、ストリートアートを紹介するページ)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 16日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ダニーデン市に位置しており、日本の大学のように大学の敷地はなく、街と一体化しており、街の一部として存在している。ニュージーランド内で最古の大学である。Language Centreで留学生の授業が行われ、平日の午前には英語の全般的な授業、午後にはIELTSの授業を受けた。医学部やビジネススクール、地理学部等様々な学部が存在する。

参加した動機

将来グローバルに活躍したく、そのためには海外での生活を避けては通れないと考えます。その際に日本文化との違いが僕自身にとって受容できるものかどうか分からないため、このプログラムに参加して1か月程海外で生活して海外の文化を体験してみたいと思い、参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ビザを早めに取得する

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

オンライン上で申請する

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

大学が参加させる保険に参加すればよい

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
リスニングを鍛えたほうが良い
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
授業は平日の午前の計15時間の一般的な英語の授業、午後は計9時間のIELTSに特化した授業を受けた。授業内ではクラスメイトと頻繁に議論を交わし、英語を話す機会が非常に多かった。
②学習・研究面でのアドバイス
英語を恐れず話そう
③語学面での苦勞・アドバイス等
ネイティブスピーカーの話す英語が聞き取り切れない
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイ先の家がとても広く、食事也非常においしかった
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
道が広い
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
保険に加入
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
物価は全体的に日本より高い。食費はホームステイから提供されていたのでそれほど消費しなかった。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

特になし

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とても良い。親切であり相談しに行くと親身に聞いてくれる。東大の教務課とは大違い

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

DVDを借りれたり、図書館が非常に広かったりと非常に充実している。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外の文化に触れることができ知見が広がった。ニュージーランドの人たちは移民が多く、外国の人に対してフレンドリーであり、挨拶も頻繁に交わされていた。

②参加後の予定

海外の大学院に行きたいと考えるようになった。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

どんどん恐れず留学に参加しよう

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月22日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 未定)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

オタゴ大学は1869年設立のニュージーランドで最も古い歴史を持つ大学です。QS世界大学ランキングでは151位にランクインされており、非常にレベルが高く、教育の質に定評のある大学です。オタゴ大学に通う全学生の約7割が、大学のある街ダニーデン以外からやってきた学生であり、ニュージーランド国内はもちろん、海外からも多くの優秀な人材が集まってきます。

参加した動機

留学し英語力を身につけたり異文化に触れてみたいすることに興味がありましたが、長期で留学するのはいささか不安もあったので一番ほど良いと感じた三週間という期間のこのプログラムに応募しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

振込に手間取ったので余裕をもってやる方がいいと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは申請しませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に何もしませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSSMAと東大から入るよう言われた保険にのみ入りました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFLのスコアは所持しておくようにしました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本食が恋しくなるので味噌汁やお茶を持っていくといいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

ほぼ全てが語学センターでの英語学習でした。宿題が少し出てそれについて授業したり授業内で完結することも多かったです。英語の4技能に含めて文法、語彙なども学習しました。講義聴講と言って自分に興味のある講義を聴講することも可能でした。

②学習・研究面でのアドバイス

宿題が意外に多いのでこまめにやることをお勧めします。

③語学面での苦勞・アドバイス等

日本人が多く日本語で話してしまう場面も多く英語の練習が少し足りなかったと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学側がホームステイを提供してくれました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

天気は非常に変わりやすいので注意が必要です。バスが主な公共交通機関でした。食事は様々な国の料理が楽しめます。ビールが美味しかったのが印象的でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はかなり良かったです。天気が非常に変わりやすいので風邪をひかないように注意が必要です。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃で14万円、授業料・教科書代・家賃全てで2600NZD、その他で8万円くらいでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの14万円の奨学金を受給しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末はNZの観光地を敢行しました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

日本人のスタッフもいるためかなりサポートは良かったように思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

ジム、運動施設が無料で使えたのはかなり良かったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語学習を主な目的としてプログラムに参加しましたが、日本人も多く、日本語で話してしまうことも多く、その辺りは少し残念でした。ただ全体的には少しですが英語力が向上したと思いますので参加した甲斐があると思います。

②参加後の予定

東京大学国際交流本部公募のカリフォルニア大学派遣プログラム、デービス校に応募しようと考えております。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

費用もそこまで高くないので、迷ったら参加してみることをお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 4 月 10 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	オタゴ大学ウインタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
オタゴ大学はニュージーランド最古の大学でニュージーランド全土から学生が通っている
参加した動機
海外留学の経験がなく、大学生になったら異文化に触れて新たな発見をしたり視野を広げたいと思っていたから。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
期限さえ守っていれば特に大変なことはない
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザは必要なかった
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
風邪薬や胃薬など一通り日本で使っているものを持参した
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
ケンブリッジ英検FCE
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
教科書に沿って会話や文法、読解を行った。自習室のような部屋ではたくさんの映画が見放題で、英語字幕をつけるととても良い英語学習になった。東大生なら文法と読解は難しくないレベル。
②学習・研究面でのアドバイス
③語学面での苦勞・アドバイス等
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学側が用意して下さったホームステイ先に泊まった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
夏に行ったが結構寒い。コートが必要。交通機関は車やバスが主。日本のように24h空いているコンビニがあった。ほとんどの店でクレジットカードが使えるがバスは使えない。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は非常に良い。子供や女性が夜に一人で歩いている。(夏だったため21時くらいまで外が明るい)
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃20万程、授業料11.5万程、ホームステイ代9.3万程、娯楽費6万程、現地バス代6千程

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学海外奨学派遣事業より14万円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末はクイーンズタウンとフィヨルドランドにそれぞれ一泊二日で訪れた
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
サポートは充実している。最初のオリエンテーションで多くのサポート体制を説明してもらったがほとんど使う機会はなかった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
ジムがとても素晴らしい。器具が充実しており、バスケやバレーボール、バドミントン、卓球などもできる。図書館はいくつかありパソコンも備わっている。食堂は小さめだがホームステイだったため毎日ランチボックスを持たせてくれたので買う必要はなかった。
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
英語が何不自由なく使えるわけではないが、英語圏で生活することができることがわかり自信につながった。また、語学学校で出会った世界中からきている人々と話すことで文化の違いと多様性を実感した。
②参加後の予定
IELTSを受けようと思う
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
このプログラムは語学学校の授業だけでなく大学の講義も聴講できるので、ある程度英語が理解できるなら大学の講義を聴講することをおすすめします。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 12日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ニュージーランドで最も古い大学であるオタゴ大学の、Language Centreの英語学習プログラムを受講した。また、それに加えて、週2コマ程度、オタゴ大学の通常の講義を聴講させていただいた。

参加した動機

大学院から留学することを考えていたが、英語に自信がなかった。今回のプログラムは英語を鍛えるプログラムに加え、海外の大学の通常の講義を聴講することができるのと事だったので、海外の大学の雰囲気を感じることでもできると思い参加した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

事前にビザを取る必要はなかった(空港で発行された)。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

咳止めや胃腸薬などを持って行った。プログラム初週で少し体調を崩してしまったので、持って行ってよかったと思った。
エクスカッションで参加したミルフォードサウンドへの小旅行の申し込みの際に、「破傷風の予防接種を最後に受けた日付」が必要だったので、親に確認できるような通信環境(sim,wifi等)を整えておくといいと思う。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

プログラム参加者に義務付けられていた付帯海学と、前期教養学部生に義務付けられていたOSSMAIに加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

前期教養学部に海外渡航届を提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前にTOEFLを受けたところ、84点だった。特にこのプログラムに向けて英語の勉強をするということにはなかった。
もともと苦手だったリスニングは少し勉強していたが、あちらのネイティブのスピードにはなかなかついていけなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ダニーデンは天気が変わりやすく、また気温の乱高下も激しい(日によって10℃から30℃まで変わりうる)ので、脱ぎ着しやすい上着等を持っていくといいと思う。
リスニングはきちんと勉強しておいた方がよい。リスニングができるかどうかでプログラム期間中の成長度合いも大きく変わると思う。
大学にはwifiがあるが、モバイルwifiルータやsimカードなど、海外でも使える通信環境を整えておくのと便利。私は現地でsimカードを購入した。今はiphoneを含むほとんどのスマホでsimロック解除ができるはずなので、あらかじめ日本でsimロック解除をしておいて現地でプリペイドsim等を買うことを勧める。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Language Centreで行われる英語のクラスはGeneral English(以下GE)と英語資格(TOEICまたはIELTS)の試験対策をするクラスの二種類があり、GEは一日3コマ、試験対策は1日1~2コマある。英語資格については私はIELTSを選択した。
GEは英語のネイティブスピーカーが講師で、grammar, writing, listening, speaking, readingのすべてにわたってバランスよく扱われる。何かのビデオを見たり教科書の文章を読んだりして、考えたことを英語でディスカッションしたりwritingにまとめるのが中心だった。listeningやreadingのインプットだけでなくアウトプット能力がよく鍛えられるいい授業だったと思う。また、宿題も多く、Newsademicという新聞のようなものを1週に一冊読むなど、主にreadingの課題が多かった。
IELTSの方は、日本の大学受験指導と比較的似ている。少し違うのはスピーキングの練習があることで、時々何かのトピックについてちょっとした会話をしたり、IELTSの本番と同じような形式でスピーキングテストの練習をしたりした。
いずれの授業についても、writing, speakingなどアウトプットの能力が重要視されていたことが印象に残っている。

②学習・研究面でのアドバイス

いくらでも英語の練習になりうる場はあるので、いろいろな人に積極的に話しかけに行くことが大事だと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

Language Centreにはいろんな国から来た人がいるので、中には訛りがかなり強い人もいる。リスニング能力だけでもあらかじめ鍛えておかないと、なかなかこの機会を生かしきれないと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイ。プログラム側が割り当ててくれた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

オタゴ大学があるダニーデンは天気がすぐに変わるので、折り畳み傘を持っていくとよい。
交通手段は基本的にバスで、行こうと思えばかなり広範囲まで行けるが、バスの頻度は30分に一本程度なので注意したほうが良い。お店は大体5時くらいでしまってしまうのにも注意が必要。
お金は基本的にクレジットカードがあれば生きていける。ただし、バスに乗るときは、現金かGoカードと呼ばれるICカードが必要。Goカードはお店等でチャージするときはクレジットカードも使えるようだが、バス内でチャージするときはやはり現金が必要。バスはGoカード、Student discount利用で片道2.3ドル程度はするので、それなりに現金を持って行った方がよい。
食事はホームステイ先に完全に依存するが、私のホストマザーは料理がとても上手だったのでとても快適に過ごせた。たまに日本食が恋しくなった時は、日本食レストランがたくさんあるので行けばよいと思う。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ダニーデンの治安はとてもよく、ホストマザーは日中ほとんど家に鍵をかけていなかった。日本と同レベルに警戒していれば十分だと思う。医療機関等は使っていないのでわからない。
ダニーデンは天気が変わりやすく、気温の乱高下も激しいので、脱ぎ着しやすい上着を持っていくと体調管理に役立つ。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃は往復14万程度。それに加えてプログラム料金(授業料、教科書代、ホームステイ代、食費込み)が約2600NZドル≒23万円程度だった。食事は1日三食分込み。基本的に滞在中最低限必要なお金はバス代のみで、バスは片道2.3NZドルだったので3週間で約70ドル≒6000円弱程度かかった。
エクスカッションとして週末を利用したミルフォードサウンドへの一泊二日の旅行にも参加したが、これは約3万円程度(食費は含まない)だった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

プログラムに付属している奨学金14万円(東京大学海外奨学派遣事業)をいただいた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末に一度ミルフォードサウンドへの旅行に参加した。そのほかの週末には、ホストファミリーにビーチへ連れて行ってもらったり、ルームメイトだった中国人高校生と遊んだりしていた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

英語のペーパーバックやDVDが借りられる施設があるなど、学習面はかなり充実していた。
生活面等でのサポートは、(私は利用しなかったが)ホームステイ先になじめなかった場合などにも備えているようで充実しているようだった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

どこも基本的にとってもきれいで利用しやすい。LanguageCentreのすぐ隣にはジムやバドミントンなどができるスポーツ施設もあった。
eduroamや生徒用の学内wifiがあるので通信環境は充実している。
大学全体の図書館も利用できるほか、英語学習用のペーパーバックやDVD等を借りることのできる施設も別にある。
パソコンも東大のECCSのようなシステムがあり、学内のものを使うことができる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムを通して、確実に英語力は向上したと思う。それと同時に、まだまだ英語力が不十分であることも実感したので、英語を勉強するモチベーションアップにもなった。

また、General Englishのクラスや、通常の講義の聴講などを通じて、かなり日本のクラスとは違う雰囲気を感じた。一番違うのは、生徒側が積極的に授業中に発言していることである。こうした雰囲気を体感することができたのは、非常にいい経験だったと思う。

さらに、Language Centreでは様々な国から来た人と話すことができた。特に、学生だけでなく社会人の方もいたのは新鮮だった。子供を持つ韓国人のお母さんや、ニュージーランドに移住するためにいったん仕事をやめ英語を勉強しに来たドイツ人など、世の中にはいろいろな人がいることを実感した。

また、ホームステイ先でルームメイトだった中国人高校生とも仲良くなることができた。私の拙い英語でもコミュニケーションをとることができ仲良くなることができたのは、一つの自信になった。

②参加後の予定

大学院留学を目標に、英語をもっと勉強していきたいと思う。また機会があれば、海外で英語の腕試しをしたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

オタゴ大学のプログラムは、比較的英語に自信がない人でも気軽に参加でき、英語を鍛えることができる。また、英語を鍛えるだけでなく、いろいろな人と話すことができたり、オタゴ大学の授業を聴講することもできるので、普段東大にいるだけではなかなかできない新鮮な経験をすることができると思う。少しでも興味があれば、ぜひ参加してみるとよいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go Global

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年 4 月 8 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

オタゴ大学はニュージーランド最古の大学です。本プログラムの目的は当大学で留学生向けの英語教育プログラムに参加し、短期で英語のトレーニングをすることです。

参加した動機

春休みという時間を有効に使いたかった。その際、英語が公用語の海外で英語の勉強ができることが自分の成長につながると感じたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東京大学で応募→ガイダンス→航空券、旅行保険、OSSMA等加入→渡航、プログラム開始

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは観光ビザです。渡航1ヶ月前から準備を始めることをおすすめします。大使館でやるよりも自分でインターネットでやるのが良いでしょう。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

1ヶ月もいるので常備薬に気をつけましょう。自分は忘れたのがあって大変でした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で指定されたものに加え。期限に注意!

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位交換はありません。残念。そのため特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
東京大学で選ばれるためにTOEFLやIELTSが必須
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ホームステイなのでおみやげとか持っていったらいいかも。後はありったけの情熱
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
基本的には留学生向けの英語の授業と一緒に参加するような形。そのため現地のニュージーランド人との交流はほとんどなく、留学生同士の交流のみになる。英語は4能力の育成とIELTSの練習で、座学と言うよりはみんな楽しくやるような物が多かった。
②学習・研究面でのアドバイス
英語は東大生なら問題ないと思う。ホームステイなのでホストファミリーと仲良くしましょう
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語は問題ないはず。留学生も多いので第二外国語が生きることも
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホームステイ。当たり外れが大きいので嫌だと感じたらすぐに変えることを推奨
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
3月は快適に過ごせる。交通機関は正直言って脆弱なので気をつけましょう。食事はホストファミリーによる。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良いが、新学期の為浮かれた大学生が多い。病院は中心部にあるがメッチャ待つと聞いた。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
奨学金はちょうど航空券ぐらい。なので自己負担分は授業料18万円と自分の娯楽費

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学から14万円支給される

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

体育館が自由に使うことができる。週末は友人と旅行に行ったりした。オタゴ大学の授業に潜ることはできるが、留学生の場所と離れているため現実的ではない。英語の先生は返事が来るが、他の教授に(地質学とか生物学とか)メールを出しても返事が来ないことが多い

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

何でも相談に乗ってくれるが、基本英語のためコミュニケーションに齟齬が起きることがあるので注意。怒ったりすることはないのでわからなかったら何度でも聞いたほうがいい。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はあるが遠い。体育館は近いが埋まることが多いので予約必須。食堂は日本のレベルを期待しないほうがいい(高いし美味しくない)が、ホストファミリーが弁当を用意してくれるのであまり使うことはなかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

授業は(海外基準で)至って普通の英語の授業です。家に帰ってもホストファミリーとは英語で交流するので24時間英語の環境に置かれるのでそこそこ英語ができるようになった気がします。わたしはホストファミリーと仲良くできずに分かれる数日前に喧嘩してしまったのですが、その際に大学側に提出した書類(ライティング)が短時間でスルスルかけるようになっていたり、喧嘩(リスニング、スピーキング)が意外とできるんだなあといったところで英語力の上達を感じました(笑)ホームステイをやめた後は現地ですぐにできた友人が借りている家に居候させてもらって、そこで貴重な経験もできたし、何より楽しかったです！もちろん英語での会話になりましたし、たくさん友達が作れて英語力も上がるのでいい留学になったと思います。

②参加後の予定

引き続きIELTSの勉強を自主的に行う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ニュージーランドはいいところです。現地人のニュージーランド訛りはひどいですが、授業の先生はそんなところはないのでしっかり英語の勉強ができます。ホストファミリーは気をつけて！！合わないと思ったらすぐに変えてもらう！ホテルに住むこともできるから無理しないように

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

各紹介サイト。地球の歩き方

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

<https://www.facebook.com/UOLCFY/photos/a.234583468682.136597.196475088682/10155425622728683/?type=3&theater>

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 20日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: インフラ)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

オタゴ大学: ニュージーランド南島のダニーデンに位置するニュージーランドで最も古い大学。全生徒数約22,000人に対して100か国以上から2700人近くの留学生を受け入れている。そのため大学内に語学学校(Language Centre)を併設している。

参加した動機

英語を勉強しつつ大学の授業を聴講することができるというスタイルが魅力的でした。またホームステイしつつ現地の生活を体験できるという点も良かったと思います。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

参加手続きに関して特に難しいところはないと思います。余裕を持てるよう早め早めに行動しましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯に関しては保険適応範囲外であるため渡航前に歯科で点検を受けました。予防接種などはこの留学のために受けるということは特にありませんでしたが、これまで受けた予防接種(破傷風や日本脳炎など)はいつ何を受けたのか予めメモしてから渡航しました(母子手帳の記録を写して保険証と一緒に携帯していました)。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学側から指定を受けた保険に加入しました。加えて教養学部の学生に関してはOSSMAへの加入も義務付けられていました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

渡航情報届けを教養学部(前期課程)に提出したぐらいで特に大きな手続きはしていません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

そもそもこのプログラムが語学留学メインのプログラムであったため、語学面で準備はしませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

プログラム参加者のほとんどが同じ便の飛行機に乗ることになるので、航空券の手配は早めしておく方が無難です。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

基本的にLanguage Centreでの英語の勉強がメインで、それに加えて週に数回オタゴ大学の授業を聴講するというスタイル。また東京大学の学生のためだけにアレンジされたレクチャーも週1でありました。授業聴講はある程度制限はありますが、自分の興味のある分野のレクチャーを受けることができます。

②学習・研究面でのアドバイス

学校での授業だけでなくホームステイ先で過ごす時間も語学力を伸ばす良い機会です。積極的にホストファミリーやフラットメイトと交流して、一日中英語に触れている状況に身を置くといいと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

ニュージーランド英語(Kiwi English)に慣れるまではかなり聞き取りづらいと思います。特に母音の発音が大きく違います。時刻の表現も独特なので予め調べていくといいかもしれません。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

オタゴ大学側が手配してくださったホームステイ先での滞在。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏でも基本的に長袖で過ごせる気候です。朝方などは寒くて暖房をつけていました。物価は日本よりは高いと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は悪くありません。水道水も飲むことができ衛生面も良いと思います。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

奨学金による補助があれば出費は30~40万程度だと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOを財源とする奨学金で月7万(計14万)受給していました。大学側が提示している奨学金です。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

非常に短期間の留学なのであまり休暇の時間はなかったのですが基本的にホストファミリーやフラットメイトと過ごしていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学留学ですので当然語学面のサポートは厚いです。生活面に関しても大学、ホストファミリーともにしっかりとサポートしてくれます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

オタゴ大学の学生証が配布されるので、それを使えば自由に大学の図書館などを利用することができます(本も借りられます)。また大学のほぼ全域でオタゴ大学専用wifiまたはeduroamを使用することができるためインターネット環境も整っています。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

オタゴ大学のあるダニーデンの街自体が学生の街で過ごしやすく勉強するのに非常に良い環境なので、語学留学先として優れていると感じました。3週間というかなり短い期間なので何か大きな結果を残すということは難しいと思いますが、将来的な長期留学の第一ステップとしてはぴったりのプログラムのように思います。

②参加後の予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ウィンタープログラムと言ってもニュージーランドは夏です(暑くはありませんが)。せっかくの長期休みを利用して過ごしやすい気候のもとで語学の勉強に打ち込むのも楽しい経験になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

外務省が出している「たびレジ」に登録しておけば緊急時などに連絡が来るので安心です。今回の留学中には、サイクロン接近情報やニュージーランド国勢調査への参加義務の連絡が来ました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2018年 4月 7日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部2
参加プログラム：	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学：	オタゴ大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職（医師・法曹・会計士）
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業（業界： ）	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

オタゴ大学はニュージーランド南島のダニーデンに位置する大学で、ニュージーランド最古の大学である。現在は商学部、健康科学部、人文学部、理学部の4つの学部を有する総合大学である。学生の7割が地元外から集まる。

参加した動機

大学に入学した当初から留学をしたいと考えていたものの、なかなか挑戦できずにいたが、このプログラムがちょうど自分の予定と合うものだったため。また、英語力にやや不安があったが、1ヶ月近くに及んでホームステイをし英語を中心的に学ぶプログラムというのはとても魅力的であったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

国際交流課の方に提示して頂いた書類を手順にそって提出した。学費の振込がやや難しく、クレジットカードで支払おうとしてrejectされてしまった。自分の口座を持っている大手の銀行の窓口で海外送金としてやって頂くのが最も確実かと思う。私自身は三菱UFJ銀行でやって頂いた。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

日本国籍であればVISAは必要なかった。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

特になし

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学から手続きして頂ける付帯海外に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

特になし

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

特に準備はしていなかった。受験以降は大学の講義以外ほとんど英語の勉強をしてこなかったためかなり不安であった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

私は成田空港でWifiルーターを借りて行ったが、ニュージーランドはアメリカなどと比べるとやや高いため、現地の空港でSIMカードを借りるなどすると、安くすむかと思う。また、Language Centreで初日にSIMカードが配布されたため、それに加入するのが結果的には一番安い方法であった。また、紫外線が日本の7倍強いと聞いたので、日焼け止めは必須であると思う。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

オタゴ大学のLanguage Centreに所属し授業を受ける。午前はGeneral English, 午後はIELTS対策の授業であった。Advancedクラスだったが、宿題は週2〜3時間もあれば終わるような内容であった。授業はテキストに沿って行い、難易度はそこまで難しくはなかったが、どちらかといえばListeningやSpeaking重視の内容だったように思う。また、私はオタゴ大学の学部生の授業を聴講した。そちらは東大の講義とは違って学生同士がよくdiscussionし、頻繁に発言していた。先生方の英語は聞き取りやすいことが多かったが、学生の英語はなかなか聞き取ることができず議論についていけないこともしばしばあり、自分の英語力不足を痛感した。

②学習・研究面でのアドバイス

Language Centreでは自分のレベルに合ったクラスに入るため特に心配はいらないかと思う。また、日本の多くの大学生の春休みとかぶっているため、2〜3月はLanguage Centreの多くの学生が日本人で、日本語を話さずがないよう気をつけていた。

③語学面での苦労・アドバイス等

ニュージーランドの方は訛りがつよく、簡単な単語でも聞き取れないことがしばしばあった。また会話のスピードもとても速いのではじめは聞き取れないことも多くあった。スピードの速い英語のリスニングの練習などをおくと良かったのかもしれない。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

ホームステイで、ホストファミリー、費用などの面は全てLanguage Centreが手続きをしてくださり、それに従った。ホストファミリーは大変親切にしてくださりとても居心地がよかった。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

NZは2月は夏だが、私の滞在していた期間はあまり気候に恵まれず、最高気温12～13度という日もよくあった。また、天気も変わりやすく、一日のうちの寒暖差も激しいため、長袖の軽いダウンなどが一着あると良かったと思う。半袖は着る機会がなかった。通学はほとんどの人がバスを使っていた。食事は3食全て含まれていた。バス以外のほぼ全ての場所で(自販機でも)クレジットカードが利用できる。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安はとても良く、日本とほとんど変わらないくらいかと思う。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空券 約14万円

授業料・教科書代・家賃・食費 約20万円

交通費(バス代) 約8000円

娯楽費(週末の旅行やアクティビティ, その他食費など) 約8万円

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

東京大学から 14万円

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

週末には1泊2日でクイーンズタウンに旅行に行った。また、Language Centreのミルフォード・サウンドへの1泊2日のトリップにも参加した。他の週末はダニーデンの街を観光したり、オタゴ半島に行ったりと大変充実していた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

語学学校ということで色々な英語のレベルの学生が様々な地域から来ていることもあり、サポート体制はとても充実していると感じた。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

Language CentreにはICLと呼ばれる英語の学習スペースがあり、リスニング、読書、PCでの調べ物ができるだけでなく、好きな映画を観ることもでき、DVDを借りることもできた。また、大学のジムやカフェテリアも近くにあり、無料で使用できる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私にとってこの留学の一番大きな意義は異文化の中で1ヶ月間生活することであった。ダニーデンでの生活は総じてとても心地がよく恵まれたものではあったが、自分の住み慣れた環境とは全く違う、大きく異なる家族、社会の中で生活することは十分に私の価値観を変化させてくれるものだったと思う。また、英語はよくできるわけではなかったが、留学中に不自由することがほぼなかったということは、自信につながり、今後の英語学習、ひいてはまた留学したいというモチベーションを高めてくれた。

②参加後の予定

留学が身近に、またより魅力的に感じるようになった。学部のプログラムで数年後にまた留学をしたいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

英語に自信がない学生さんにこそおすすめできるプログラムだと思う。日本の寒い冬を抜け出して南半球で一ヶ月過ごすことは必ず良い経験になると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月12日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	オタゴ大学ウィンタープログラム	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input checked="" type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

オタゴ大学付属の語学学校。ニュージーランドの南島ダニーデンに位置し、ニュージーランド各地から学生が集まる。語学学校の生徒でも、図書館、クラブなどを含めオタゴ大学の施設はほとんど利用できる。

参加した動機

2018年夏から長期留学に行く予定で、その準備のため英語力の向上を図りたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

資料提出は自己責任のため、不備がないかきちんと確認する必要がある。料金の振り込みは最初クレジットカードで行おうとしたができず、銀行を通して振り込んだ。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

申請する必要はなかった

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしていない。持病等なければ、特段する必要もないと思う。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

加入する保険は決められているのでそれに加入した。OSSMAは学部で必須ではなかったの、加入はしなかった。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位認定をしていないため特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

語学学校なので特に準備をしなくても問題はない上、今回は東大生全員が一番上のクラスに配置された。オタゴ大学の授業を週に何コマか受けるチャンスがあったので、その授業を理解するためには事前に語学レベルを上げておいたほうが良いと思う。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日焼け止めと虫除けは持参したほうが良い。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

朝10時に授業が開始し、午後1時から2時で昼食。午後の授業に関しては、月金は3時まで、それ以外は4時までだった。予習は特に必要ないが、宿題が多く、宿題をやるのが授業の復習になる。自分は週に2コマ大学の授業に行ったが、移動時間がかかり不便であった。また、主に月曜日の放課後に、大学の教授が東大生向けに授業を開講してくれる。

②学習・研究面でのアドバイス

特になし

③語学面での苦勞・アドバイス等

語学学校の日本人の割合が8,9割で、授業外は日本語が主たる言語になりやすい。英語を話すチャンスを増やすのが大変だった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイで、留学生は自分だけだった。食事は美味しく、日本食が一切恋しくならなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候的には2,3月は夏だが、そこまで暑くはなくニット等を持って行っておいたほうが良い。バス代が60ドル(4800円程度)とかなりかさんだ。クレジット決済が出来ない場合もかなりあるので、現金は多めに持って行ったほうが良い。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

衛生環境も治安もかなり良い(東京と同程度か東京よりも良いかもしれない)ので心配することはほとんどないと思う。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費16万円、授業料・ホームステイ費を除き、現地雑費で(週末のたび旅行に行っていたのもあるが)7万円以上かかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO奨学金14万円支給。大学側が情報を与えてくれる。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

UNIPOLというジムでfitnessの集団レッスンを3回程度受講(お試し期間で無料だった)。オタゴ大学の日本語の授業のチューターを2回行い、japanese chat timeというクラブに2回参加した。障害者アートのギャラリーに関心があったため、授業を休んで見学に行った(uni crewという施設でボランティアに関する情報をもらえる)。週末はクイーンズタウンとミルフォードサウンドに行った。自然がとても綺麗でとても良かった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポート体制は充実していると思う。語学学校なので授業自体で困ることはそこまでなく、相談に行くことはなかった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

中央図書館は綺麗で、次週環境が充実している。スポーツ施設も、ランニングマシンを始め機材が充実している。学食に当たるところはおそらくOUSAの3ドルランチのみ。昼食はホストファミリーがランチボックスを準備してくれたので、食堂には行かなかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

リスニングとスピーキングに苦手を感じていたので、元のレベルよりはかなり上がったという実感はある。ホームステイをすることによって、現地の生活に入り込むことができ、日常だけではなく結婚式や誕生日などを知ることができ興味深かった。

②参加後の予定

2018年秋から1年留学に行く予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

語学学校という環境は日本人ばかりの為、事前にニュージーランド人の友達を作っておくなど、積極的に外の環境にアクセスしようとしなければ英語を話す機会はそこまで多くはないので要注意。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

unicrew(ボランティア紹介サイト)<https://careerhub.otago.ac.nz/workgroups/unicrew>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。